

平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組

□※1:平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、平成30年4月自己点検委員会で確認した。

□※2:～6月時点の現状・進捗状況を記述、→第1回学校関係者評価委員会に報告

□※3:10月中間点検→第2回学校関係者評価委員会に報告

□※4:3月年度末点検→第3回学校関係者評価委員会に報告

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
重点目標	1. 基本方針	○本校の修業年限の拡大や働き方の多様化などの変化に応じて、2-40という言葉に込めた意味とイメージに矛盾がないようにすることが望まれる。	新規	校長	■現状は「2-40」の名称が定着しており、学外向けの入学案内書等でも次年度に向け広報しているため、当面は変更の予定はない。機会を見て、改めて検討したい。	■人生100年時代において、学び直しのできる教育機関にふさわしい表現を、新たに検討する必要は感じている。次回の入学案内書等、募集広報活動との関連で、早期に対応する必要があるようなら、変更についても具体的に検討したい。	■保護者説明会等の場では、「2-40」の名称について、実際には3年制の学科もあり、60歳の定年も延長される傾向にあるので、あくまで象徴的な表現であると補足し、理解してもらっている。	■夜間・休日の施設を利用した、主に社会人を対象とする学び直しの講座の実施・拡大を次年度に向けて計画しており、その募集広報等との関連において、適当な時期に名称の変更も考えたい。
	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPCの育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ○教科指導においてはアクティブラーニングなどの導入により、年々着実に前進が見られるが、入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外におけるTPCの指導にさらなる工夫が求められていることから、教務委員会や学生委員会を中心とした取組に期待したい。	継続	校長	■授業外でのTPCの指導については、引き続き教務委員会や学生委員会を中心に具体的な取組を推進する。	■朝の挨拶運動への学生の参加、学生中心の学園祭の運営など、新たな取組も始まっている。引き続き、教務委員会や学生委員会を中心に、具体的な取組を推進することになっている。	■朝の挨拶運動への学生の参加、学生中心の学園祭の運営など、新たな取組を適宜開始している。まずは試行してみても、その過程で必要な修正を加え、内容を高めていきたいと考えている。	■高大接続の影響もあつて高等教育は確実に変化しており、専門学校に求められる学びについても再検証が必要である。授業におけるアクティブラーニング、授業外での新たな試みを、引き続き推進させたい。
			新規	教務委員会	■各学科ごとに実施される入学時オリエンテーションに繋がる試みとして、30年度AO入試による入学生に対して、入学前スクーリングを実施した。この結果を検証して、効果が実証されるようであれば、AO入試以外の入学生に対しても拡大する方向で検討する。	■入学前スクーリングを実施した30年度AO入試による入学生に対して、入学後の経過報告の実施を決定した。学生委員会の退学防止プログラムにおいて実施している「退学防止調査票」データを活用し、退学の兆候の有無等を定期的にチェックし、スクーリングの効果を検証する予定である。 ■31年度AO入試の課題に関しては、29年度に決定した通り、第1回課題である作文の内容をリメディアル教育の一環となるべく変更した。第3回課題は引き続きスクーリングを実施する方向で検討している。	■AO入試による30年度入学生でスクーリングに参加した新入生の経過を7月末と9月末に調査した。データ数が少なくスクーリングの効果はまだ定かではないが、引き続き年度内で継続して検証していく。 ■第1回課題の作文の目的を「リメディアル教育の一環としての基礎学習」から「文章表現の基礎学習(思考を整理して言語化する)」に変更した。 ■31年度入学生に対しても昨年度同様にスクーリングを実施することが決定し、準備を開始した。今回はAO入試による入学生の他、看護科の公募推薦入試合格者も対象に加え実施する予定である。	■31年度AO入試による入学者及び看護科の公募推薦入試合格者を対象としたスクーリングを3月に実施した。内容は昨年同様、全学科共通でレクリエーション的要素を含んだ「友達作りの機会」としての第Ⅰ部と、各学科に分かれて「学習への導入」としてアクティブラーニングを取り入れた授業体験とレポート作成を中心とした第Ⅱ部の二部構成とした。各部門、各学科より参集した担当教職員が協働し、各学科の在校生もスタッフとして参加、親睦を深め、入学後の学校生活の不安を解消し、期待感を高めるものとなった。
			新規	学生委員会	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらう。 ■体育祭と学園祭では、学生に役割と可能な部分の裁量権を与え、主体的に動き、創意工夫ができるようにする。	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらった。 ■学生の意見で体育祭の競技を1種目入れ替えた。学園祭実行委員長、スローガンは全ての学生から募り、決定した。	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらった。 ■学生の意見で体育祭の競技を1種目入れ替えた。学園祭実行委員長、スローガンは全ての学生から募り、決定した。ステージイベントや本部企画は学生の提案により実施することにした。	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらった。 ■学生の意見で体育祭の競技を1種目入れ替えた。学園祭実行委員長、スローガンは全ての学生から募り、決定した。ステージイベントや本部企画は学生の提案により実施した。
	(2)退学防止	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○また、表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫も進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	校長	■年度初めに数値目標を示した上で、記録の整理・分析と情報共有をしっかりと行い、引き続き退学防止のための活動を推進する。	■数値目標を設定し、引き続き「退学防止の事例記録」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究を進める。在校生への退学防止の対策は、学生委員会の課題として校務分掌に示している。	■数値目標を設定し、「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究を進めている。退学防止の事例については、学科長会議等において「退学防止調査票」の書式で、学生委員会から随時報告してもらっている。	■数値目標を設定して「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究を継続し、退学防止の成果が徐々に出てきている。退学防止事例については、引き続き学科長会議等において「退学防止調査票」の書式で学生委員会から随時報告してもらうことにしている。
			継続	校長	■AO入試による入学予定者への入学前オリエンテーションの実施結果を踏まえ、AO入試以外の入学者に対しても入学前の指導を拡大して実施することを検討する。	■31年度入学予定者への入学前指導プログラムは、教務委員会の課題として校務分掌に示している。	■31年度については、AO入試による入学予定者に加え、看護科の公募推薦入試による入学者についても対象を拡大して実施することを予定している。	■31年度は、AO入試による入学予定者に加え、看護科の公募推薦入試による入学者へも対象を拡大し、3月11日に実施予定である。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	医療秘書科	■入学時ミスマッチを解消するため、作文や面談等における入学動機の確認を慎重に行う。 ■入学前指導プログラムにおけるスクーリングを最大限活用し、AO入試による入学予定者と教員、在校生とが関わり合い、距離感を近づけるとともに、学習導入の円滑化を図る。	■今年度のAO入試による入学生は、現時点まで概ね良好な状況である。 ■次年度入学予定者向けのテーマや内容については今後検討に着手予定である。	■AO入試による入学生は、例年より学校生活に積極的な取り組みが見受けられる。スクーリングの効果によるものか今後検証する。 ■次年度入学予定者向けの課題を若干変更した。 ■スクーリングに関しては昨年度実施の内容をブラッシュアップする。	■30年度AO入試による入学者の動向は、引き続き経過を追っていく予定である。 ■次年度入学予定者の第2回課題は、第1回の全学科共通課題が変更されたことに伴い、一部変更した。 ■第3回課題(スクーリング)は医療分野への興味、意識を高める授業体験を実施した。参加者のレポートから概ね好評と感じられたため、これをベースに3月11日実施の次年度生スクーリングに向け準備を進めている。
			新規	医療マネジメント科	■平成30年度生に対して実施した入学前指導プログラムの効果を検証し、改良を加えながら引き続き実施する。	■平成30年度生に対して実施した入学前指導プログラムの効果を検証しており、今後それを踏まえて改良を加えながら引き続き実施する予定である。	■現時点においては、平成30年度生に対して実施した入学前指導プログラムの効果について、hyper-QU等により検証している最中である。 ■今後、必要に応じて改良を加え、引き続き実施する予定である。	■30年度生に対して実施した入学前指導プログラムの効果を検証しており、それを踏まえて次年度入学予定者に対しては改良を加えながら実施する予定である。 ■hyper-QU等を検証したことにより、AO入学者を中心としつつそれ以外の問題を抱える学生についても対処している。
			新規	診療情報管理専攻科	■具体的な取り組みについて、特に必要としていない。	■具体的な取り組みは実施していない。	■具体的な取り組みは実施していない。	■具体的な取り組みは実施していない。
			新規	くすり・調剤事務科	■AO入学前オリエンテーションの内容を工夫して学科のことも理解を深めて退学防止に役立てていく。	■10月末を目標に、内容を決定する予定	■10月末を目標に、内容を決定する予定である。	■学科として内容を決定し、教務委員会に12月21日に提出した。
			新規	介護福祉科	■AO入試入学予定者について今後もテーマを検討し、介護教育への導入としていく。 ■AO入試入学者が入学前とのミスマッチがないよう、入学後も面談等をしていく。	■AO入学者が入学後もモチベーションが継続するよう、面談等で確認している。 ■AO入学者入学前プログラムが、介護教育の導入になるよう内容を後期で検討する。	■5月の個別面談を実施し、心境を確認した。 ■AO入学者入学前プログラムは検討中。	■AO入学者については、入学時のモチベーションが維持できている。 ■AO入学前プログラムは、介護がイメージしやすく、導入に繋がるよう介護場面を設定したプログラムにした。また、個別ワーク、グループワークと段階を踏み、まとめとして介護場面を皆で実践し体感できる内容にし実施予定。
			新規	鍼灸医療科	■30年度生AO入試入学予定者に対し、入学後の授業を反映した内容に変更し実施している。入学後は検証を行う。 ■入学後は面談を実施し、ヒアリングを参考にしながら学生対応に当たる。	■入試課題に関連する解剖学基礎の授業内容に活かされている。 ■入学後の第1回目の面談は5月連休明けに実施済み。	■10月中には、前期追再試験対象学生について、面談を行い成績不振による退学防止に努める。	■AO入試区分の学生は、より細かいフォローを検討していく。
			新規	看護科	■指定校及び公募推薦での合格者はAO入試の入学前プログラムに参加させていただく。	■31年度生より参加の方向で担当者と調整中。	■入学前に学生間の交流の機会を持つために、公募推薦合格者を第3回スクーリングの参加者に加えた。	■3月11日実施のスクーリングに公募推薦合格者も参加予定で準備をすすめている。
			継続	教務委員会	■年2回の学内研修会は教職員のアンケートなども参考にしながら、より要望が高く、かつ教員のインストラクションスキルの向上に有効なテーマを取り上げ、継続して実施する。 ■3月15日の教職員全体会において、1月に一部教員が受講した外部研修「教職員のための中途退学防止戦略」の伝達研修を行い、全教職員での情報共有を行った。有用な研修について内容を全員で共有していく仕組みの構築に繋がる第一歩となった。 ■外部研修への参加を促進するため、外部研修受講補助費を創設、運用開始したが、より使いやすいシステムにするために運用基準、細則を精査し整える。 ■授業公開については、原則として学校全体での2週間の一斉実施を継続する。ただし、看護科に関しては、実習の多い教員に配慮したより参観しやすい仕組みを検討する。前・後期の隔年実施とし、30年度は後期実施を目指し、準備する。	■教員研修はインストラクションスキル(教授力)向上を目的として、学内において外部講師を招聘し、年度内2回実施する。第1回は8月に実施する。 ■自己啓発の意識を高め、外部研修への積極的参加を推進するよう、研修案内について学内での広報に留意している。 ■外部研修受講補助費に関しては、受講後の情報共有のために受講報告書の新書式について検討中である。 ■授業公開は後期10/22～11/2の2週間で実施することが決定し、準備を開始した。看護科に関しては、別途要望を聞く機会を用意し、対応している。	■第1回教員研修は8月に実施した。研修後のアンケート調査の結果では大変高評価であった。 ■外部研修受講補助費に関しては、受講報告書の書式を研修で得た成果及び今後の活用の仕方について記載できる書式に変更した。 ■授業公開は昨年とほぼ同様の実施要領が策定され、予定通り準備が進んでいる。看護科については、学科長の全ての学科教員の授業の参観義務を緩和、また他学科で義務付けられている複数授業の参観を、1以上の授業と変更した。参観授業数ゼロの教員をなくすことを目標とする。	■第2回教員研修は3月に実施した。 ■外部研修の受講者数は年々増加している。 ■授業公開は予定通り実施された。公開授業比率は例年通りの高水準であった。課題であった看護科教員も全員が参観し、目標であった不参観者数ゼロを達成した。
			継続	校長	■必ずしも高校新卒者を対象とした専門課程の教育に限定せず、本校の強みを生かせる新規の教育事業の実施を具体的に検討する。	■高校新卒者を主な対象とする専門課程の教育の再編・拡充に加え、留学生や社会人を対象とした新たな教育プログラムについても、校長室の新規教育開発プロジェクトチームを中心に検討を進めている。	■夜間や休日の校舎を活用した、社会人や外国人を対象とする新規の教育事業の実施に向け、具体的な複数のプランについて検討に入っている。	■既存の昼間部専門課程の学科の再編に加え、夜間や休日の校舎を活用した社会人や外国人を対象とする新規の教育事業を、年度内3月までの試行期間を経て、4月から本格的に稼働させる予定である。
			継続	校長	■学科ごとに3つのポリシーの再確認はされつつある中で、30年度はそれに基づく具体的な計画を推進する。	■再確認された3つのポリシーについて、現状との整合を具体的に図る段階に入っている。	■ポリシーに適った学生により多く入学してもらうため、オープンキャンパスなどの場でも、説明に努めている。	■ポリシーに適った学生により多く入学してもらうため、各学科のオープンキャンパス等での説明に、さらに工夫を求めたい。
1 教育理念・目的・育成人材像	1. 理念・目的・育成人材像	○本校が目指す人材の育成充実に向けて、学科再編等の検討を引き続き進めてほしい。 ○また、各学科における3つのポリシーの再確認をし <u>しっかりと行って</u> 、引き続きそれぞれの教育を進めて欲しい。						

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	医療秘書科	■全教員が3つのポリシーを理解し、授業をはじめ教育活動全般、同じ方向性を持って取り組む。	■4月開催の学科会議において、兼任教員に新たに掲げた3つのポリシーを伝え、理解を得た。	■学校・学科行事の際に3つのポリシーを特に意識し、計画・準備・実施している。 ■保護者会において3つのポリシーを伝える予定である。	■オープンキャンパスにおいて学科のポリシーを提示し説明するとともに、モデルとなる学生スタッフの教育に努めている(アドミッションポリシー)。教員は学生参加型の授業など、理解が深まり、対話力の向上につながるよう努めている(カリキュラムポリシー)。専門性と社会性を、偏らずバランスよく有する人材育成を行っている(ディプロマポリシー)。 ■4月開催の学科会議において、兼任教員には学科の3つのポリシーを伝え、共通理解を得たと考えている。 ■本年度初の取り組みとして10月20日に実施した保護者会においても、学科の3つのポリシーについて伝え、共通理解を得たと考えている。
			新規	医療マネジメント科	■引き続き、学科運営計画に基づき、明確にし実施する。	■学科運営計画に基づき、各教員が作成した目標設定をベースにして、実施する予定である。	■学科運営計画に基づき各教員が作成した目標設定について、滞りなく実施されているか面接等により確認している。	■学科運営計画に基づき各教員が作成した目標設定について、滞りなく実施されているか面接等により確認している。 ■学科全体に対しては、学科教員会により確認し、実践を促している。
			新規	診療情報管理専攻科	■元来、目標・目的が明確な学科であり、前年度までの方針を継続しつつ学科運営計画を策定し、それに基づき実施する。	■学科運営計画に基づき、各教員が作成した目標設定をベースにして、実施する予定である。	■学科運営計画に基づき各教員が作成した目標設定について、滞りなく実施されているか面接等により確認している。	■学科運営計画に基づき各教員が作成した目標設定について、滞りなく実施されているか面接等により確認している。 ■学科全体に対しては、学科教員会により確認し、実践を促している。
			新規	くすり・調剤事務科	■多くの授業にカンフェランス形式を取り入れ、生徒が主体的に考え、積極的に討議に参加することを通して、考える力、積極性、対話力の向上、育成を図っている。	■すでに進めている。2年生は効果を上げつつある。	■今後も継続して発言を促していく。	■継続して授業内での発言する姿勢の促進を図る。
			新規	介護福祉科	■学科の3つのポリシーを教員間で再確認し、教育の向上を目指していく。 ■「介護福祉士養成の到達目標」達成を目指し、知識・技能・態度の観点から、2年次に振り返りをし課題を挙げ、次の目標「求められる介護福祉士像」を目指すよう指導をしていく。	■教員は3つのポリシーを意識し、専門教育・社会教育を引き続き行っていく。 ■学校行事、学科行事、授業等で、主体性を養える機会を取り入れている。 ■各段階の実習前に目標を立て、実習終了後には振り返りをし次の実習に繋げられるよう指導をしている。	■実習前、実習中、実習後の指導をしている。 ■学校行事、学科行事、授業等を通し主体性を持てるよう3つのポリシーを意識しながら取り組み中。	■知識・技術のみならず、他者との関わり・クラスメイト、留学生との関わりを学生生活の中で培っている。 ■学校行事、学科行事、授業等を重ねるごとに主体性をもって、他者と協同ができています。
			新規	鍼灸医療科	■3つのポリシーについて、4月の学科会議や日々の担任会にて教員間でしっかりと情報共有と確認を行い、1年次からの学生指導の強化を図る。	■4月より取り組んでいる。特に国家試験対策は強化し、学生のモチベーションにつながっている。	■国家試験対策は継続している。後期より積極性を引き出すための工夫をおこなっており、検証していく。 ■後期より国試対策担当教員を配置し、中心として指導に当たる。	■国家試験対策は対策担当教員を中心に実施している。学生の進捗状況を把握し指導に当たることが出来た。 ■1年生の学外見学実習はほぼ計画通りに終了できた。
			新規	看護科	■3つのポリシーを国家試験合格に導くための教育方法に具体化させていく。	■5月～6月にかけて具体策をまとめ、学校関係者及び教員間で情報共有を行った。	■入学者選抜に関しては「入試委員会看護科部会」で、カリキュラム上の具体策は「担任会議」にてまとめ共有をはかり進めている。	■教育の質的転換を図る上で、①看護の楽しさを深める力のある人材獲得(アドミッションポリシー)を意識した入学者選抜(入試)を行った。また、②個々の教員はカリキュラムの中で国家試験を意識して授業展開を工夫している(カリキュラムポリシー)。③実践力が備わり学び続ける人材の輩出(ディプロマポリシー)が出来ているのか、年度末に評価が必要と考える。
	2. 育成人材像と業界等の人材ニーズへの適合	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■医療機関従事者からの特別授業等を開催し、学生個々の職業観醸成を促す。 ■医療機関を見学する機会を学生に提供し、その役割や業務、職種等を理解させ、学習意欲を喚起する。	■5月に、1年生全員を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生対象に「医事課におけるレセプト業務」について特別授業を現役の医療機関従事者を講師に招いて実施した。 ■6月の病院実習開始以降、実習先訪問時に状況確認及び情報収集を予定である。	■5月に、1年生全員を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生対象に「医事課におけるレセプト業務」について特別授業を現役の医療機関従事者を講師に招いて実施。 ■6月以降、病院事務実習先への訪問時に収集した情報を踏まえ、指導内容等に手を入れる予定である。 ■7病院の理解と協力のもと1年生全員の見学を実施した。	■5月に1年生を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生を対象に「医事課におけるレセプト業務」について、いずれも現役の医療機関従事者を講師に招いて特別授業を実施した。また10月に2年生医療事務コース生を対象にレセプト審査会社訪問見学を実施した。 ■病院事務実習先への訪問時に収集した情報を、今後の実習先および就職先の選定指導に生かせるよう、データ整備に着手する予定である。 ■1年生全員が実際に病院を見学し、業務内容、職務内容等の理解を深めた。 ■全常勤教員が、医療機関で医師事務作業補助者養成に携わる方より、医師事務作業補助者の現状や今後について学び、理解を深めた。同様に、医療現場における医師事務作業補助者の実状を理解するため、3月に病院見学会に参加した。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	医療 マネジメント科	■実習指導者、採用担当者、病院職員・業界職員である特別講演講師・兼任講師、卒業生から情報収集する。	■5月に実施された医療特別講演の講師である病院職員から、情報収集を行なった。	■5月に特別講演講師、医療機関等に勤務する卒業生から、情報収集を行なった。 ■6～10月に、病院事務実習指導者から、情報収集を行なった。 ■今後、特別講演講師から情報収集をする予定である。	■11月と12月に各1回ずつ特別講演を実施したが、その講師である病院職員と関連団体職員から、それぞれ診療情報管理についての情報収集を行なった。 ■次年度以降、教員・学生の医療現場の診療情報管理室の見学について検討している。
			継続	診療情報管理専攻科	■管理士実習指導者、採用担当者、病院職員・業界職員である特別講演講師、卒業生から情報収集する。	■管理士実習指導者、採用担当者、病院職員・業界職員、卒業生から、今後情報収集する予定である。	■5月に特別講演講師、医療機関等に勤務する卒業生から、情報収集を行なった。 ■6～11月に、管理士実習指導者から、情報収集が完了する予定である。 ■今後、特別講演講師から情報収集をする予定である。	■11月までに、管理士実習指導者から、情報収集を完了させた。 ■11月と12月に各1回ずつ特別講演を実施したが、その講師である病院職員と関連団体職員から、それぞれ診療情報管理についての情報収集を行なった。 ■次年度以降、教員・学生の医療現場の診療情報管理室の見学について検討している。
			継続	くすり・調剤事務科	■企業、協会と共同作業の提案を見据えながら、今後も緊密にコンタクトを継続していく。	■機会あるごとに、企業担当者、協会担当者とは面談、電話やメールのやり取りを継続している。	■機会あるごとに、企業担当者、協会担当者など、連絡を継続している。	■機会あるごとに、企業担当者、協会担当者との情報交換、特別授業の依頼、店舗見学依頼などの活動を継続している。
			継続	介護福祉科	■業界と連携し、最新の介護の動向や情報を知り、カリキュラム編成や、授業に反映していく。また、業界に協力をいただき特別講義等を通して授業の充実を図る。 ■31年度医療的ケア実地研修実施に向け実習先の医療機関と連携し準備を進める。	■各介護サービス事業所の特色、役割を体感し学べるよう法人の中で複数の事業所のある施設を5月に見学をした。 また、6月に重症心身障害児施設見学も実施した。7月には、訪問介護事業所管理者、地域包括支援センター所長による特別講義を予定している。 ■31年度医療的ケア実地研修の実現を目指し、実習病院と連絡を取り進めている。	■6月に重症心身障害児施設を見学し、障害者施設の理解を深めた。 ■7月に訪問介護事業所管理者による特別講義を実施した。 ■7月に校外学習で、地域包括支援センター所長による特別講義を受け地域包括ケアのしくみを理解した。 ■医療的ケア実地研修に向けて準備中。	■8月に人工透析を併設している施設を教員が見学し、新しい形の施設について学んだ。 ■10月の国際福祉機器展に1年生が参加し、最新の介護の情報や福祉機器の体験をし学びを深めた。 ■医療的ケア実地研修施設は、依頼中。
			継続	鍼灸医療科	■専門分野の学会や研修会に積極的に参加し、そこで得た情報や動向について教員間で共有し、授業等にも反映させる。 ■鍼灸分野以外でも連携して活かせる分野をカリキュラムに導入し幅広い鍼灸師を育成する。	■教員研修については計画を立てすでに実施している。 ■30年度新カリキュム内に新たな分野を導入し、取り組んでいる。	■専任教員は積極的に研修や学会に参加し、研鑽を積んでいる。今後の教員研修計画を実施する。	■30年度は見学実習を通じて、より企業との連携を図ることができた。卒業生の就職先も含めて臨床実習先の意見を今後の実習に反映させて行く。
			継続	看護科	■1年生:2週毎のホームルームの時間に各自医療に関して興味・関心を持った事を調べまとめて行く、3月にクラス内でプレゼンテーションを行う。また国試過去問題小テスト実施。 ■2年生:後期の各実習カンファレンスを自己の職業観を醸成するリフレクションの機会とする。 ■3年生:年間を通じての実習から職業人としての意識の醸成をはかる。看護研究、看護観の発表。	■1年生、2年生現在取組中 ■3年生:実習に取り組みながら、前期は看護研究、後期は看護観の発表を通じて意識の醸成をはかる。	■1年生、2年生:ホームルームの時間を活用して取組中。 ■3年生:9月に看護研究発表会修了。その後実習に取り組みながら、各自が考える看護とは、看護実践の拠り所となる思いをまとめ2月末発表。	■1年生は3月にホームルームで取り組んできたポートフォリオの発表を行う。 ■2年生は後期に集中する実習を通じ職業観の醸成をはかる。2月1日合同カンファレンス修了。 ■3年生は2月(クラス内)、3月(全体)看護観発表予定。
	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程の編成	○カリキュラム編成における職業実践教育の視点、PDCAサイクルによる編成プロセスを維持してほしい。	継続	校長	■引き続き職業実践教育の視点から、PDCAサイクルによる改善を推進する。	■仕事の高度化や就職の現状等の変化に対応するため、現行カリキュラムの変更や医療事務系学科の実習時期の見直し等、PDCAサイクルによる改善を進めている。	■カリキュラムの変更や実習時期の見直し等、次年度の教育計画において具現化するかたちで、改善を進めている。	■カリキュラムの変更や実習時期の見直し等、各学科の次年度の教育計画において、具体的に検討と改善が進められている。
			継続	医療秘書科	■実務において必要とされる応用力を身につけるための基礎力定着を意識した授業進行を心がける。 ■地域包括システムを理解する初期段階として、「介護保険の基礎」を科目新設する。 ■31年度カリキュラム内容を検討する。	■今年度も1年生の検定試験受験時期を秋とする。 ■次年度カリキュラム検討を開始する予定である。	■1年生の検定試験受験時期を秋とした。 ■教育課程編成委員会及び実習病院におけるヒアリングをもとに、学習の基礎力だけでなく、ヒューマン・スキルを身につけさせることを意識し、次年度カリキュラムを編成した。	■1年生の検定試験受験時期を秋にすることで、検定関連科目については11月受験に目標を設定し、基礎力定着を意識したカリキュラムとした。 ■地域包括システムを理解する初期段階として、「介護保険の基礎」を必修科目に新設した。 ■教育課程編成委員会及び実習病院におけるヒアリングをもとに、学習の基礎力とともにヒューマン・スキルを身につけさせることを意識し、次年度カリキュラムに反映させた。
			継続	医療 マネジメント科	■教育課程編成委員会、業界団体、病院実習指導者の意見を、カリキュラム策定、授業運営、教員研修に反映させる。	■教育課程編成委員会、業界団体、病院実習指導者の意見を、今後、カリキュラム策定、授業運営、教員研修に反映させる予定である。	■教育課程編成委員会・業界団体等の意見を参考に、次年度生カリキュラムにおいては特にパソコン系科目・管理士科目を中心に改編した。授業運営、教員研修についても、今後、反映させる予定である。	■教育課程編成委員会・業界団体等の意見を参考に、次年度生カリキュラムにおいては特にパソコン系科目・管理士科目を中心にリニューアルをして策定した。 ■カリキュラムに基づいて、適正な教員配置をする予定である。
			新規	診療情報管理専攻科	■日本病院会によるカリキュラムを最重要視し、主にそれに基づいてカリキュラムを策定、実施する。	■日本病院会によるカリキュラムを最重要視し、主にそれに基づいてカリキュラムを策定、実施する予定である。	■日本病院会によるカリキュラムを最重要視し、主にそれに基づいてカリキュラムを策定した。	■日本病院会による管理士カリキュラムを最重要視した上で、さらにパソコン系科目を充実させたカリキュラムを策定した。 ■カリキュラムに基づいて、適正な教員配置をする予定である。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	くすり・調剤事務科	■年2回の非常勤講師との科会を通して、カリキュラムの検証、見直しをしている。また、協会との打ち合わせを通して時代の流れに沿った内容の教科も検討している。	■前期終了後に2回目の非常勤講師との科会を予定している。また、企業とは、就職活動が落ち着いた7月頃、協会とは該当の検定試験が終了後を目途に打ち合わせを予定している。	■後期授業が開始したので、順次、非常勤講師、企業、協会などと打ち合わせを実施していく。	■後期授業アンケートを受けて非常勤講師との意見交換を12月に実施した。また11月～1月に、1年生を対象に企業採用担当者に業界研究のための説明会、ならびに今後の教育内容の要望などの意見交換もお願いして学内で実施した。4月～6月も順次、他の企業に依頼していく予定である。
			継続	介護福祉科	■昨年度、実習施設と学生に「実習に関するアンケート調査」を実施した。分析した結果が実習に活かせるよう施設、学校と連携をとり、介護実習の向上を図る。 ■教育課程編成委員会での意見を参考にし、31年度カリキュラム編成や授業、実習の整備をしていく。	■実習に関するアンケート調査結果を踏まえ、施設との連携を密に取り学生の実習環境を整えている。 ■33年度実施の新カリキュラムに向け、教育課程編成委員会委員からの意見や31年度先に実施する。大学の情報をリサーチする。	■教育課程編成委員会の意見や業界団体主催の研修会等に参加し、引き続き情報収集しカリキュラム編成に向け準備している。 ■実習施設とも実習巡回時に情報交換をし連携を図っている。	■留学生を視野に入れた教育・介護実習の見直しをしている。関連した、研修や教育研究開発プロジェクトメンバーに加わり情報の共有、共同で活動中。 ■33年度新カリキュラムに向け、31年度実施する大学の情報を収集中。
			継続	鍼灸医療科	■関連企業や治療院とは、これまで以上に意見交換の場を設けて連携を図る。 ■1年次から臨床実習の中で学外見学実習を30時間程度導入し、臨床の現場から医療体制を理解し今後の鍼灸師像を学ぶ。	■1年次臨床実習内で学外見学実習を40時間程度確保しており、7月後半から実施予定である。 ■第1段階でのヒアリングは終了し、実施に向けての準備中である。	■1年生の学外見学実習は夏季休暇中および9月の補講期間を利用し2/3を終了している。後期、引き続き学外見学実習を行う予定である。	■新カリキュラムの見学実習はほぼ計画通りに終了している。実習先へ訪問し、頂いた意見については31年度の臨床実習に活かしていく。 ■31年度の臨床実習の準備は既に計画し、より実施しやすいように学事日程を変更している。
			継続	看護科	■来年度に向けては、学生の成長を見据えたカリキュラムポリシーを再構築するため、戦略的な会議を設け、何をどのように学ばせたら良いか・教員間で意思統一図っていく。	■国家試験合格率UPに向けての戦略的会議を定期的に開催し、教員間で指導方法の見直し、意思統一をはかっている。	■3年生への国家試験に向けた取り組みを、毎回学科教員会で共通議題として取り上げ教員間で指導方法の見直し、意思統一をはかっている。	■現在取り組み継続中。2月「108回看護師国家試験」3月合格発表。
			継続	校長	■検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を、引き続き学科や教科系に働きかける。	■コマシラバスの有効性については、教員間で必ずしも共通認識が得られていないのが実情である。コマシラバスが明らかに有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を学科や教科系に働きかけたい。	■授業の指導案作成について、8月の教員研修の中でテーマの一つとして採り上げた。共通のコマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を働きかけたい。	■資格試験や検定試験の対策科目等において、共通のコマシラバスが有効と思われるケースがあれば、引き続き具体的な検討を働きかけたい。
			継続	医療事務教科系研究会	■コマシラバスについて、有用であるか今後検討する。現段階では、学科ごとに担当教員間で授業進捗状況や学生の到達度を確認、微調整を行いながら進めている。	■1年次の診療報酬に関する検定の取り組み方が学科によって異なるため、授業の進捗状況に違いがある。学科ごとに担当教員間で授業の進捗状況の確認、調整を行いながら進めている。	■1年次の診療報酬請求事務にコマシラバスが有用であるか検討した。結果、週4コマの授業数であること、後期は通常授業と進度別クラスによる授業が混在する複雑な授業進行のため、従来通りの方法が現状に即していると判断、継続していく。 ■オリジナルテキスト教材の問題点抽出、見直しを行っている。	■後期授業は、従来通りの方法で滞りなく終了。1年生の受験時期が学科により異なるため、共通のコマシラバス作成は現状では難しい。 ■来年度に向けて、オリジナルテキストの見直し、その他の教材の修正を行っている。
	(2)教育課程への外部意見の反映	<u>○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査が改めて望まれる。</u>	継続	医療秘書科	■卒業生ネットワークを有効に活用し、卒業年次毎に評価確認の準備をする。 ■各種委員会をはじめ、実習先や見学先からの情報を継続して収集し改善に努める。	■2年生向け就職活動支援のひとつとして、卒業生懇談会を5月に開催し、その際に卒業生からの情報収集に努めた。	■卒業生懇談会を5月に実施した。 ■日頃足を運んでくれる卒業生から個々に就業状況や近況を確認し、来校記録として残している。 ■12月(学園祭)に卒業生向け情報交換会を催し、教員のみならず、在校生との交流も促す。	■5月に実施した卒業生懇談会において、卒業生からの情報収集に努めた。 ■卒業生が来校した際に個々の就業状況や近況を確認・記録し、今後の学生指導に役立てる。 ■12月(学園祭)の卒業生向け情報交換会は、場を用意したものの医療機関の繁忙期と重なり、来場者はほぼなかった。次年度に向け、事前案内方法などを検討していく。 ■インターンシップ先からの評価等を参考に実践的教育の充実に努める。
			継続	医療マネジメント科	■求人・就職先、専門分野で就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。	■5月に実施された卒業生懇談会において、卒業生から情報収集を行なった。	■5月に医療機関等に勤務する卒業生から、情報収集を行なった。 ■6～10月に、実習・求人(就職)先担当者から、情報収集を行なった。 ■今後、特別講演講師から情報収集をする予定である。	■11月と12月に実施した特別講演の講師から、それぞれ情報収集を行なった。 ■12月の学園祭、2月の校友会総会・懇親会で来校した卒業生から、それぞれ情報収集を行なった。 ■キャリアサポートセンターとの連携により、外部情報を収集している。
			新規	診療情報管理専攻科	■求人・就職先、管理士実習先、診療情報管理士として就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。	■5月に実施された卒業生懇談会において、卒業生から情報収集を行なった。	■5月に医療機関等に勤務する卒業生から、情報収集を行なった。 ■6～10月に、実習・求人(就職)先担当者から、情報収集を行なった。 ■今後、特別講演講師から情報収集をする予定である。	■11月までに、管理士実習指導者から、情報収集を完了させた。 ■11月と12月に実施した特別講演の講師から、それぞれ情報収集を行なった。 ■12月の学園祭、2月の校友会総会・懇親会で来校した卒業生から、それぞれ情報収集を行なった。 ■キャリアサポートセンターとの連携により、外部情報を収集している。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	くすり・調剤事務科	■2年に1回開催されるいちご会(学科同窓会)に出席した卒業生への聞き取りをしている。(次回は平成31年2～3月の開催を予定) ■また、企業との打ち合わせの際には、求められる教科や教科内容などをヒアリングしている。	■2月に学科同窓会を開催予定、その際、卒業生からヒアリングを予定している。 ■また、企業とは就職活動が少し落ち着く7月頃に打ち合わせを予定している。	■2月の学科同窓会の開催時にヒアリングを予定している。 ■今後、企業とも順次打ち合わせを予定している。	■2月の学科同窓会の開催を準備している。今後は、学年ごとに同窓会の実施を提案して、招待があればそこに参加する形式とする。 ■10月頃から順次、いままです就職先として、また説明会を依頼してきた企業担当者と、業界研究の説明会依頼とともに、求められる人材像、教科内容などの意見交換を実施している。
			継続	介護福祉科	■31年度カリキュラム内容の見直しが予定されている。内容が決定次第、編成に取り掛かる。 7月に予定されている教育課程編成委員会での意見も反映させる。 ■卒業生が来校した際や、卒業生懇談会、懇親会において、施設の最新情報を把握し授業に反映していく。	■養成校では33年度より新カリキュラムでの介護教育となる。7月に予定されている教育課程編成委員会での意見等も参考にし、31,32年度中に編成する。 ■5月に卒業生懇談会を実施した。各介護サービス事業所の現状や最新情報を懇親会を通して得られた。	■31年度新カリキュラムに向け、30年度に実施される大学等の動向を見ていき、検討の材料としていく。 ■卒業生からヒアリングができるよう交流の場を検討していく。 ■実習先とは連携を取り、円滑に実習ができています。 ■7月に実習施設に依頼し特別講義を実施した。10月にも実施予定。	■33年度新カリキュラムに向け、外部からの情報や教育課程編成委員会での意見を参考に引き続き検討している。 ■卒業生からのヒヤリング等は、卒業生が勤務している実習施設や来校時にしている。 ■10月に、訪問介護事業所所長による特別講座(障がい)を実施した。 ■介護実習は施設と連携を取りながら実施している。
			継続	鍼灸医療科	■30年度のカリキュラム改編では、国家試験の合格率アップに繋がるよう科目設定、開講時期を考慮し作成している。一方で、鍼灸師像として、広い視野を持った人間力が就職先ではもとめられており、学びの場として、学外見学実習先を多く確保できている。 ■卒業生支援講座や学科交流イベントの機会をととして、卒業生からのヒアリングの場としている。	■30年度のカリキュラムは申請に添った内容で実施している。新たな取り組みとして1年次見学実習先を確保し、夏季中を利用した実施予定である。 ■交流イベントは5月に実施済み。卒業生が参加し在校生との情報交換を行った。 ■卒業生支援講座は年間4回実施予定。すでにホームページで募集を呼び掛けている。	■1年次の学外見学実習は前期分について終了している。実習先とは実習了後、十分な意見交換をおこない記録している。 ■卒業生支援講座には1名の卒業生の参加があり、卒業後の様子についてヒアリングが出来た。今後も継続し情報収集に努める。	■新カリキュラムは1年目をほぼ計画通りに終了している。新カリキュラムの内容については問題を感じていないが、旧カリキュラムでの未修得科目に対する再履修が複雑である。対応を検討中である。
			継続	看護科	■次年度のホームカミングdayについては今年度同様に実施する予定。退職防止につなげるべく、採用施設との連携はかつていく。	■本年度は6月に開催予定で準備をすすめている。	■6月に開催した。今年度は今のところ早期退職者なし。	■早期退職者の報告無し。 ホームカミングday は定着してきているので、来年度以降も実施の予定。
			継続	CSC	■実習先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を実施する。 ■3月中旬に行う27年度生のGメールでの調査結果の検証を行う。	■現在、実習先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■27年度生のGメールでの調査を行い、その結果を現在検計中である。	■現在、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■27年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。その結果を現在検証している。	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認する予定である。 ■27年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。
			継続	CSC	■協議会を通じて各学科と連携し、学生が取り組み易く、積極的に関わられるようキャリアサポートプログラムの内容の見直しを行い、また医事系求人の早期化等の対策も行う。	■現在、協議会にてキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。 ■学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から見直しを行っている。	■現在、協議会と連携してキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。内容は、プログラム全体を見直すものとなっていて、検討中である。	■現在、協議会と連携してキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。内容は、プログラム全体を見直すものとなっている。各コマの担当を決めたところである。
			継続	進路指導協議会	■協議会を通じて各学科と連携し、キャリアサポート関連の諸課題について検討する。	■4月以降、毎月開催。 ■CSC、医療事務系3学科教員と合同で、主に1年生向け「キャリアデザイン」の内容見直しに着手した。	■CSC、医療事務系3学科教員と合同で、教科目「キャリアデザイン」の内容見直しに着手した。今後、学科の独自内容を加味しつつ次年度準備に取りかかる。	■CSC、医療事務系3学科との協議を重ね、「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」の内容を見直し、シラバス案を作成。次年度も社会状況の変化や学生の理解度を確認しながら更なる改良に努める。 ■教材を一部改訂する予定。
			継続	点検委員会	■29年度改訂を適切に実施していくために、課題の発見と点検、改善を行う。 ■速報をより効果的にするために、自由記述の確認及び配付日などの微調整を行う。 ■集計結果へのコメント記述について確認し、進め方を検討する。	■アンケート実施の合理化の観点から、前年度より実施の速報(単純平均値とグラフ、自由記述)を集計結果報告とする。 ■学科毎の集計まとめは事務局では行わず、学科に集計データを提供する。 ■集計結果へのコメント記述は、前年後期と同様に前期においても実施する。	■アンケート実施の合理化の観点から、前年度より実施の速報(単純平均値とグラフ、自由記述)を集計結果報告とした。 ■学科毎の集計まとめは事務局では行わず、学科に集計データを提供する予定であったが、早稲田速記株式会社のご厚意により、前年同様のデータをいただき、学科へ提供した。 ■集計結果へのコメント記述は、前年後期と同様に前期においても実施した。	■アンケート実施の合理化の観点から、前年度より実施の速報(単純平均値とグラフ、自由記述)を集計結果報告とした。 ■学科毎の集計まとめは事務局では行わず、学科に集計データを提供する予定であったが、早稲田速記株式会社のご厚意により、前年同様のデータをいただき、学科へ提供した。 ■集計結果へのコメント記述は、前期・後期ともに実施した。また、後期は提出を任意として兼任教員へも依頼した。 ■31年度中にアンケートの定期改訂作業を行うことを自己点検・自己評価委員会で確認した。
			継続	医療秘書科	■校内もしくは学科内で学習成果を発表する場を用意する。 ■コンテストとは異なるが、検定試験実施団体からの成績優秀賞を今後も継続して受賞できるよう、基礎力、応用力を身につけるための授業を継続する。	■学習成果発表の機会のひとつとして、前年度生がプレゼンテーションソフトで作成した、病院事務実習報告を1年生向けオリエンテーションで紹介した。	■医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定で成績優秀賞を受賞した。 ■2年生は病院事務実習報告をプレゼンテーションソフトを活用し作成中である。	■医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定で成績優秀賞を受賞した。 ■5月、学習成果発表の機会のひとつとして、前年度生がプレゼンテーションソフトで作成した病院事務実習報告を、1年生向けオリエンテーションで紹介した。 ■2月、2年生は病院事務実習報告をプレゼンテーションソフトを活用して作成し、各クラス内で発表した。
(3)キャリア教育の実施		○キャリアサポートプログラムは、平成28年度からはキャリアサポートセンター(CSC)と進路指導協議会が連携して、教育課程編成委員会や本委員会の意見、提案なども参考に、時代の変化に即し、学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点を踏まえた改編を開始している。更なる取組に期待したい。	継続	CSC	■協議会を通じて各学科と連携し、学生が取り組み易く、積極的に関わられるようキャリアサポートプログラムの内容の見直しを行い、また医事系求人の早期化等の対策も行う。	■現在、協議会にてキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。 ■学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点から見直しを行っている。	■現在、協議会と連携してキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。内容は、プログラム全体を見直すものとなっていて、検討中である。	■現在、協議会と連携してキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。内容は、プログラム全体を見直すものとなっている。各コマの担当を決めたところである。
(4)授業評価		○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■29年度改訂を適切に実施していくために、課題の発見と点検、改善を行う。 ■速報をより効果的にするために、自由記述の確認及び配付日などの微調整を行う。 ■集計結果へのコメント記述について確認し、進め方を検討する。	■アンケート実施の合理化の観点から、前年度より実施の速報(単純平均値とグラフ、自由記述)を集計結果報告とする。 ■学科毎の集計まとめは事務局では行わず、学科に集計データを提供する。 ■集計結果へのコメント記述は、前年後期と同様に前期においても実施する。	■アンケート実施の合理化の観点から、前年度より実施の速報(単純平均値とグラフ、自由記述)を集計結果報告とした。 ■学科毎の集計まとめは事務局では行わず、学科に集計データを提供する予定であったが、早稲田速記株式会社のご厚意により、前年同様のデータをいただき、学科へ提供した。 ■集計結果へのコメント記述は、前年後期と同様に前期においても実施した。	■アンケート実施の合理化の観点から、前年度より実施の速報(単純平均値とグラフ、自由記述)を集計結果報告とした。 ■学科毎の集計まとめは事務局では行わず、学科に集計データを提供する予定であったが、早稲田速記株式会社のご厚意により、前年同様のデータをいただき、学科へ提供した。 ■集計結果へのコメント記述は、前期・後期ともに実施した。また、後期は提出を任意として兼任教員へも依頼した。 ■31年度中にアンケートの定期改訂作業を行うことを自己点検・自己評価委員会で確認した。
3. 成績評価・単位認定等		○在校生のコンテストや研究発表における受賞は、本校教育の成果を表すものであることから、積極的にアピールすることを引き続き進めてほしい。	継続	医療秘書科	■校内もしくは学科内で学習成果を発表する場を用意する。 ■コンテストとは異なるが、検定試験実施団体からの成績優秀賞を今後も継続して受賞できるよう、基礎力、応用力を身につけるための授業を継続する。	■学習成果発表の機会のひとつとして、前年度生がプレゼンテーションソフトで作成した、病院事務実習報告を1年生向けオリエンテーションで紹介した。	■医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定で成績優秀賞を受賞した。 ■2年生は病院事務実習報告をプレゼンテーションソフトを活用し作成中である。	■医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定で成績優秀賞を受賞した。 ■5月、学習成果発表の機会のひとつとして、前年度生がプレゼンテーションソフトで作成した病院事務実習報告を、1年生向けオリエンテーションで紹介した。 ■2月、2年生は病院事務実習報告をプレゼンテーションソフトを活用して作成し、各クラス内で発表した。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	医療 マネジメント科	■具体的な取り組み方については、今後、検討する予定である。	■具体的な取り組み方については、今後、検討する予定である。	■具体的な取り組み方については、現在、検討している。	■多くの課題があったことにより、今年度は実施しなかった。 ■次年度については実施する。
			継続	診療情報管理 専攻科	■具体的な取り組み方については、今後、検討する予定である。	■具体的な取り組み方については、今後、検討する予定である。	■具体的な取り組み方については、現在、検討している。	■具体的な取り組み方については、現在、検討している。
			継続	くすり・ 調剤事務科	■毎年、健康増進をテーマに入賞・表彰を目指して、1年生の「セルフメディケーションアワード」投稿を継続していく。	■本年度も1年生を中心に投稿を予定している。具体的には、10月頃から指導を始めて、12月末に投稿予定。	■本年度も1年生を中心に投稿の準備に入った。12月末の締め切りまでに投稿を済ませる予定である。	■12月末に、1年生全員投稿した。来年度も継続した実施していく。
			継続	介護福祉科	■12月にケーススタディ発表会を予定している。1年生も参加し意見交換をし双方の学びとしていく。 ■各実習後の実習報告会を継続していく。	■ケーススタディ発表会は12月に実施予定。 ■1年生の実習報告会を、6月に予定している。	■12月にケーススタディ発表会実施予定（1年生も参加） ■6月に、1年生(介護実習Ⅰ)の実習報告会を実施した。 ■10月に、2年生(介護実習Ⅱ)の実習報告会を実施予定。	■12月に、ケーススタディ発表会を実施し意見交換を行い、1、2年生双方の学びとなった。 ■10月に、2年生(介護実習Ⅲ)の実習報告会を実施し、振り返りをした。
			継続	鍼灸医療科	■3年生の臨床実習の中で、症例報告会を実施予定である。2年生も参加しカンファレンスを行う。 ■1年生の学外見学実習後にはレポート作成し、評価をする。	■いずれも準備に取り組んでいる。 ■学外見学実習について、6月に1年生への説明。実施に向けて周知及び指導にあたる。	■1年生の学外見学実習については前期カンファレンスを終了している。 ■3年生は12月に予定している症例報告会にむけて準備中である。	■1年生の後期学外見学実習については終了している。 ■3年生は症例報告会を終了している。
			継続	看護科	■3月の3年生の看護観発表に3学年合同で参加する。その際、3年生一人一人から後輩へのメッセージを伝えよう。	■昨年度3年生からの後輩へのメッセージが好評であった。また、先輩からの実践的アドバイスは下級生に届いたようである。今年度も実施予定。	■3月実施予定。	■3月実施予定。
			継続	広報室	本年度は5日に1本の頻度でブログをアップしている。次年度についても同様の頻度でのアップを行っていく予定である。また、各学科の専門性や社会性に関する記事のアップを学科と協力してアップしていく。	ブログについては予定どおりの頻度でアップを行っている。各学科の専門性や社会性については、後期から意識してアップできるよう各学科の担当者と調整を行っていく。	■行事や特別授業の記事作成を各学科の協力を得て記事の作成を行うなど、予定どおりの頻度でアップできている。	■行事の他に、就職内定報告や授業の様子など幅広い内容をホームページのブログコーナーに掲載できている。記事の作成にあたっては各学科からの情報提供も受けている。
		○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立と言われている。取入れやすい授業からの取組が望まれる。	新規	医療秘書科	■グループワークを授業内においても取り入れ、まずは少人数の中で話す機会を意識的に設ける。	■主に「キャリアデザイン」においてグループワークを取り入れている。 ■病院見学や学校行事等で成果を確認する予定である。	■主に「キャリアデザイン」においてグループワークを取り入れている。 ■国際モダンホスピタルショウ見学や病院見学、体育祭等でグループ行動を比較的円滑に行うことができた。	■主に「キャリアデザイン」においてグループワークを取り入れた。 ■国際モダンホスピタルショウ見学や病院見学、体育祭、学園祭等でグループ行動を前年度よりも円滑に行うことができた。 ■2年次パソコン演習Ⅳ、病棟コミュニケーション実務Ⅱ（クラークコース）において、発表形式の授業を実施した。
			新規	医療 マネジメント科	■既に28年度生カリキュラムから強化している。今後、その効果について検証し、必要があれば改変しながら実施する。	■現在、その効果について検証している最中であり、今後それらカリキュラム策定・授業運営の参考とする。	■28年度生からカリキュラムにおいて強化しているが、現在、それに基づいた授業を引き続き実施している。	■28年度生カリキュラムから強化・実践しているが、実習・就活・就業後において少しずつ成果が見えてきている。 ■この方針は引き続き実施する予定である。
			新規	診療情報管理 専攻科	■既に1科目において実施しており、当面、それ以上強化する予定は無い。	■年度当初の計画に基づいて実施している。	■年度当初の計画に基づいて実施している。	■年度当初の計画に基づいて実施しており、次年度についてもそれを踏襲する予定である。
			新規	くすり・ 調剤事務科	■多くの教科の授業に、カンファレンス形式の授業を導入していて、それを通して、生徒に提案力、プレゼンテーション力を習得させている。	■すでに進めている。2年生は効果を上げつつある。1年生がまだ積極的な発言がみられないので、1年生については発言を促しながら、今後も積極的に進めていく。	■授業内での発言など、1年生がまだ、不十分なところがあるので、今後も積極的な授業参加を促していく。	■2年次に進級したクラスにおいて、授業中での発言を促すために、グループ分け、討議・発表の形式を導入して、積極的な発言の姿勢を身につけていくことを促進していく。
			新規	介護福祉科	■グループワークで意見をまとめたり、個別に課題をまとめたりと科目により発表形式の授業が取り入れられている。内容に工夫を凝らし授業の向上を目指す。	■講義中心の授業ではなく、実践に即した授業、学生参加の授業を引き続き展開していく。	■各教員の授業で、グループワークや体験を入れながら工夫を図っている。	■個別ワーク・グループワーク・実践と、個々が積極的に意見できるような授業作りを意識し展開している。
			新規	鍼灸医療科	■30年度のカリキュラムより、1年次ではコミュニケーション学内でグループワークや発表の場を設けている。また外部臨床見学実習では、臨床現場を通して患者様とのコミュニケーションを直接学ぶ。 ■3年生は症例報告会での発表の場を設けている。	■コミュニケーション学ではコンスタントにグループワークを実施し、学生は積極的に取り組んでいる。 ■他の教科でも折に触れ実施予定である。	■コミュニケーション学の授業は終了し、学外見学実習での患者様とのコミュニケーションに多いに活かされたと感じている。	■企業と連携して、体験型授業を多く取り入れた。学生のモチベーションアップに繋げることができた。 ■今後の臨床実習では、ロールプレイングを中心とした授業内容を検討している。
			新規	看護科	■各教科の中で効果的な演習の方法について意見交換していく。	■取組中	■取組中	■各自での振り返りは行っているが、意見交換しまとめる段階には至っていない。
	4. 資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。試験問題の傾向に合わせた受験対策指導の見直しを課題としており、新たな指導プログラムに期待している。	新規	看護科	■課題を整理し、自ら学ぶ力をつけて行けるよう、1年次からの取り組みを再検討する。	■学科内で副学科長主催の担任会議を設け、適時学年間の情報共有を行い3年間のカリキュラムで何を学ばせるか評価・点検中。 ■国家試験指導方法の見直し、学生へのインフォメーションを済ませ、現在全教員で取組中。	■個別指導、小集団指導、全体指導と各教員がそれぞれの役割を持って取組中。	■個別指導、小集団指導、全体指導と各教員がそれぞれの役割を持って取組んだ。また、教員間での情報共有の機会を意識的に持っていた。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	鍼灸医療科	■受験資格要件は明確にし、文書で学生、関係者や保護者に対し配布している。 ■国家試験の問題分析後、各担当教科に反映していく。模擬試験の見直しについても実施している。 ■学生には、第1回目の模擬試験実施後から直ちに面談を実施し丁寧かつレベルに即した対応を実施していく。	■4月のオリエンテーションにて、文書を配布し説明をおこなった。 ■4月より朝と昼安にを利用し、問題演習に取り組んでいる。 ■外部模擬試験について変更している。また、第1回模擬試験の結果に基づいて面談を実施している。	■朝、昼学習に引き続き、夏季集中補講を実施済み。後期もすでにスタートしている。 後期より、国家試験対策専門教員を配置し、強化に取り組んでいる。	■国試対策担当者を置くことで、担任と連携しながら学習面と心身面を各々の立場で学生対応ができた。学生自身にも、勉強に集中しやすい環境作りができたと感じている。
			新規	介護福祉科	■国家試験対策でもある「福祉事務管理技能検定」の受験を6月、11月の2回を予定している。 ■国家試験対策科目を更に充実させる。対策講座、模擬試験受験、データ分析にも強化していく。	■今年度は福祉事務管理技能検定受験の機会を2回とし、チャンスの機会を増やした。 ■養成校2回目の国家試験受験になるが、初年度の出題問題を分析し授業や対策講座に反映できるよう見直し中。	■福祉事務管理技能検定を、6月に受験をした。11月にも受験予定。 ■国家試験出題問題の分析は継続中。 ■昨年同様、国家試験対策授業では、科目ごとに教員で分担し実施予定。対策講座は12月と1月に実施予定。	■11月に福祉事務管理技能検定を受験し、2級に合格した。 ■模擬試験の結果をデータ化し、個別面談を実施し対応した。 ■前年度の国家試験問題を分析し、国家試験対策授業に反映した。講師による直前対策講座を1月に実施した。
	5.教員・教員組織 (2)資質向上への取組	○今後は兼任講師にも参加を拡大するとしていることから、学校全体の取り組みとして定着することが期待される。	継続	教務委員会	■兼任教員の参加が増えるよう広報活動を工夫する。 ■学校全体の取り組みとして定着するよう29年度の活動を引き続き継続する。	■授業公開への兼任教員の参加拡大を目指す戦略は検討中である。	■昨年度同様の兼任教員向けの案内文書の他に「授業公開のおススメ」という案内チラシを作成し、掲示及び出席簿への挟み込みを行い、参加を呼びかけた。また昨年度参加していただいた兼任教員の先生へはメールまたは直接、引き続きの参加を依頼した。	■兼任教員の参加は前年同様であった。常勤教員同士の相互の授業参観が一巡したこともあり、兼任教員の授業を参観したいという期待は大きい。学校全体の取り組みとして定着させるためには兼任教員の授業公開を促進する必要があるが、教務委員会からの啓発のみでは限界があることも判明した。
	(3)教員の組織体制	○常勤職員と兼任講師の情報交換を一層進めて、連携、協力により学校全体を良くする努力を今後も続けてほしい。その手段の一つとして、全体議論の場である学科教員会は授業期毎に開催することを提案する。 ■総評より: ○課題解決に向けた、入学前の学力と入学後の意欲や努力の相関に基づく活動にも、兼任講師を巻き込んだ取組が求められる。	継続	校長	■なるべく多くの兼任講師に参加していただくための日程調整は困難が予測されるが、学科教員会の開催を増やすことについて各学科に働きかけたい。各職業分野での人材ニーズが変化しつつある時代において、兼任講師の方々の協力は極めて重要と考えている。	■4月の全教員会・学科教員会で、常勤教員と兼任講師との学生指導に関する連携とコミュニケーションについて、校長から改めて呼び掛けた。 ■兼任講師の方々のスケジュール調整が困難な状況はあるが、まずは前期終了後の9月中に、年央の学科教員会を開催することを各学科に働きかける。兼任講師の欠席者には、当日の資料を学科の常勤教員から直接手渡しして、情報交換を活発にするための契機とすることなども考えたい。	■兼任講師の方々のスケジュール調整が困難なため、一部の学科では学科教員会に代わるものとして、前期終了後の時期に、兼任講師と個別に面談の機会を持つようにしているケースもある。	■授業期ごとの学科教員会は、兼任教員の日程の調整が難しく、一部の学科では複数の日程で実施を試みた。また、授業アンケートでは、後期から兼任教員にも任意でコメントシートを提出してもらうことにした。今年度の授業公開では、参加した兼任教員の授業に、常勤教員の見学希望が多かったこともあり、引き続き、兼任教員の授業公開への参加拡大を呼びかけ、常勤教員と兼任教員の連携・協力を推進させる一助としたい。
			継続	医療秘書科	■毎月、担任会を開催する。 ■学科教員会を定期的に開催する。 ■退学等学籍異動以外の事項に関しても常勤・兼任教員間での意見交換の場を増やす。	■学科教員会を定期的に開催している。	■学科教員会を定期的に開催した。 ■後期授業開始前の学科会議を開催できなかった。 ■学生に関する情報を兼任講師に都度提供している。	■学科教員会開催回数が前年度を下回った。 ■後期授業開始前の学科会議を開催できなかった。時間割の関係でスケジュールを合わせることができなかったためだが、連絡や検討事項はグループウェアを利用して適宜行った。 ■学生に関する情報を兼任講師に都度提供した。
			継続	医療 マネジメント科	■担任間の打合せ、兼任講師との情報交換・共有、兼任講師への学科方針の徹底等により、学生指導、授業運営、検定対策を円滑に進める。	■年度当初の学科会議、定期的な学科教員会だけでなく、兼任講師との情報交換を実施している。	■医マネ・専攻科合同の学科教員会を定期的に実施している。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せをしている。 ■兼任講師との情報交換を実施している。	■医療マネジメント科・診療情報管理専攻科合同の学科教員会を定期的に実施している。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せをしている。 ■兼任講師との情報交換を実施している。
			新規	診療情報管理 専攻科	■学科長・担任・兼任講師による打合せ、情報交換・共有により、学生指導、授業運営、管理士試験対策を円滑に進める。	■年度当初の学科会議、定期的な学科教員会だけでなく、兼任講師との情報交換を実施している。	■医マネ・専攻科合同の学科教員会を定期的に実施している。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せをしている。 ■兼任講師との情報交換を実施している。	■医療マネジメント科・診療情報管理専攻科合同の学科教員会を定期的に実施している。 ■学科教員各人が、必要に応じて打合せをしている。 ■兼任講師との情報交換を実施している。
			継続	くすり・ 調剤事務科	■年2回の非常勤講師との科会、ならびに、非常勤講師の授業日出勤した際に意見交換、情報交換などを継続していく。	■前期終了後に2回目の非常勤講師との科会を予定している。	■後期の授業が開始したので、非常勤講師との打ち合わせを、個別に順次、実施していく。	■12月中、後期授業アンケートを中心に非常勤講師と意見交換を個別に実施した。
			継続	介護福祉科	■定期的に学科内会議を実施し、学生の状況を把握し、情報の共有を図っていく。 ■兼任講師とも情報の共有と授業進捗状況の確認をしていく。	■些細なことでも情報として伝達するようにしている。必要に応じて適宜、学科内会議を実施している。 ■情報の共有化として、必要時は兼任講師にも情報を伝えている。	■適宜、学科内会議を実施し情報の共有をしている。 ■学習面に不安がある学生には、兼任講師にも情報提供をしている。また、兼任講師からも情報をもらい共有を図っている。	■定期的に学科会議を実施し、情報共有をしている。兼任講師へも必要に応じ情報提供をし、共有を図っている。
			継続	鍼灸医療科	■鍼灸医療科の教員全体でメーリングリストを作成している。適宜、情報の共有を図っている。また、授業日には担任が中心となり専任教員と直接、対話を行っている。 ■4月の学科会議には参加率が低い為、学校としての原則、参加の義務化を検討する必要性を感じている。	■兼任教員とは、定常的に情報共有を図っている。特に問題はないと感じている。	■兼任、専任教員は常に情報共有を図っている。 ■国試模試については、問題や結果を配布し担当授業に反映をお願いしている。	■専任、教員間で学生の情報共有はできている。今後も継続していく。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	看護科	■後期は専任教員と個人面談を実施する。その際授業公開、授業アンケートを活用して情報共有を図りつつ振り返りを行う。 ■引き続き定期的に実習施設の会議を開き、実習環境の調整を図っている。	■7月より実習環境が一部変わるので、そこに向けて主要実習施設と調整中。	■随時専任教員と個別面談実施中。 ■実習施設とは7月に実習協議会を開催した。次回は12月開催予定	■専任教員との個別面談終了。 教員の体制についてはもう少し早めに決定できるよう、面談の時期を検討して行く。
4 学修成果	1. 就職率	○医療事務分野を中心に学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き <u>学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい</u>	継続	CSC	■学生のコース、希望にあった求人の確保・開拓を進めるとともに、個別面談・指導を徹底し、就職率アップに繋げていきたい。	■現在、学生の個別面談を通じて希望勤務地や希望職種の情報収集を行っている。	■今年度、医事系において大学病院の正職員採用において、多数の内定を採っており成果は出ている。引き続き、在学生の個別面談を通じて希望勤務地や希望職種の情報収集を行っている。	■今年度、医事系の大学病院の正職員採用において、多数の内定を採っており成果は出ている。就職率においても非常に順調であった昨年度と変わらない水準まできている。
	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取組と成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■各学科と教科系研究会等を軸に、これまでの取組と成果を検証しつつ、引き続き推進する。	■資格・検定取得の年度目標を示した各学科の30年度学科運営計画を取りまとめ、サイボウズ上に公開した。	■30年度学科運営計画に基づいて、各学科で進めている。	■30年度学科運営計画に基づいて、各学科で推進した。年度末に、各学科で進捗状況について検証し、その結果を次年度の学科運営計画に活かす予定である。
			継続	医療秘書科	■2年生の診療情報請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成を継続実施する。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進捗別クラス編成を継続実施する。 ■卒業時点での診療報酬請求事務能力認定試験合格者数の増加に努める。	■2年生の診療報酬請求事務Ⅲにおいて進捗別クラス編成により授業を実施している。	■2年生の診療報酬請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成により授業を継続実施中。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進捗別クラス編成による授業を継続実施中。 ■診療報酬請求事務能力認定試験合格者数が増加した。 ■2年生後期の選択科目として「医療秘書実務Ⅱ」、「PCインストラクション」他をスタートさせた。卒業時検定取得率向上及び学生サポーター制の導入とともに、クォーター制を試みた。	■2年生の診療報酬請求事務Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成による授業を実施し、学生の理解度、目指す資格級に即した指導を実施した。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱにおいても進捗別クラス編成による指導を実施した。 ■診療報酬請求事務能力認定試験の合格者数(2年生)が増加した。 ■2年生後期の選択科目として、クォーター制の「医療秘書実務Ⅱ」「医療コンピュータ実務Ⅲ」「PCインストラクション」をスタートさせた。これにより卒業時検定取得率の向上を図るとともに、懸案事項であった学生サポーター制を導入することにより、アクティブラーニング型授業のモデルケースとなった。 ■秘書技能検定準1級合格者(2年生)が増加した。
			継続	医療マネジメント科	■現状を分析した結果、各年度毎に学科目標を設定している。学科目標については年度当初に各教員に徹底した上で対策を実施し、その結果について確認する。	■現状分析に基づき年度当初に学科目標を設定したが、それについては各教員に徹底した上で対策を実施している。	■年度当初に設定した学科目標に沿って実施している。 ■前期の検定取得実績について検証した上で、今後の対策を実施する予定である。	■年度当初に設定した学科目標に沿って実施している。 ■前期の検定取得実績について検証した上で、その後の対策を実施している。 ■次年度については学事日程その他を考慮しながら具体的な実施方法を検討し、最終的に学科目標を達成させる予定である。
			新規	診療情報管理専攻科	■前年度に引き続き、授業だけでなく、模擬試験の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験の資格取得をさせる。	■授業だけでなく、模擬試験の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験の資格取得を目指している。	■授業だけでなく、模擬試験・受験対策講座の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験の資格取得を目指している。	■授業だけでなく、模擬試験・受験対策講座の実施、アプリの活用等により、診療情報管理士認定試験の資格取得の対策とした。 ■細部を検討しながら、基本的にはこの運営方針を継続する予定である。
			継続	くすり・調剤事務科	■非常勤講師と一緒にあって、試験対策講座の開催している、また必要に応じて個人指導も取り入れて合格率の向上を図っていく。	■夏休み期間に非常勤講師とともに登録販売者試験対策講座を開催する予定。	■夏休み期間に非常勤講師とともに登録販売者試験対策講座を実施した。	■登録販売者試験の直前の対策は、来年度からは、2年次前期の授業内で実施することで決定した。
			継続	介護福祉科	■6月・11月に福祉事務管理技能検定受験を予定している。 ■6月、10月、11月に国家試験模擬試験受験を予定している。 ■個々の進捗を定期的に確認し、個々に合った指導をしていく。 ■1月に国家試験受験を予定している。	■6月に福祉事務管理技能検定を受験予定。 ■7月に第2回国家試験模擬試験(2年生)受験予定。 ■模擬試験結果より個々の課題を抽出し面談を通して、学生と共に個々に合った学習計画を立てていく予定。	■6月に福祉事務管理技能検定(3級)を受験し合格した。 ■7月に第2回国家試験模擬試験(2年生)を受験した。 ■模擬試験結果を基に個別面談をし、学習計画を立てた。	■福祉事務管理技能検定受験は任意であるが、全員受験を今後も促していく予定。 ■10月に第3回国家試験模擬試験(2年生)、12月に介護協学力評価試験(1・2年生)を受験した。2年生には各回の模擬試験結果を基に、弱点教科の強化と最終調整をした。
			継続	鍼灸医療科	■30年度に向けて国家試験模擬試験の内容や外部模試の見直しを図った。引き続き比較検討を行っていく。 ■1、2年生の取りこぼし教科をなくすため、成績不振の学生には早期に対応を行う。3年生には4月より空き時間を利用した学習の習慣付けとクラス別補講を実施する予定である。	■外部模試は変更後7月に実施する。その後比較検討を行い、後期外部模試にて検討を行う。 ■1、2年生については放課後を利用し、フォローを行っている。3年生は朝と昼休みを国師対策にあて、取り組んでいる。	■外部模試の内容について実施済み。後期についても外部模試を実施予定である。 ■前期の低学力者に対して、担任を中心にフォローを実施している。	■30年度の模擬試験は予定通り終了し、学生へのフィードバックを実施済みである。 ■学業不振の学生には、細やかな対応にあたっているが、学生の都合により個別指導の時間確保が難しく、検討の課題としている。
			継続	看護科	■来年度に向けて、現役生の低学力者対策強化が必要。1年次よりサポート体制を構築していく必要があると考える。	■担任会議の検討事項として取組中。	■取組中。	■定期的に担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図った。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	医療事務教科系研究会	■年度末に課題の抽出をした。学科ごとに改善案を出し、対策を講じていく。 ■診療報酬点数改定に伴い、各種検定過去問題集のリニューアル作業を引き続き行う。	■前年度の検定結果から課題として上がった、2年生の臨床系領域強化のため、医療秘書科、医療マネジメント科合同による対策補講を実施した。 ■今回の診療報酬点数改定に伴う、検定問題集のリニューアル作業が終了した。	■後期の検定取得に向けた対策強化の一つとして、学科ごとに夏休み検定対策補講を実施した。 ■1年生の診療報酬請求事務Ⅱは前年度同様、進度別クラス編成による授業や模擬試験を実施する予定。 ■2年生の診療報酬請求事務Ⅳは進度別クラスでの授業を継続実施。	■1・2年生とも、学生が目指す検定取得級に対応した、進度別クラス編成による授業や、模擬試験を予定通り実施した。 ■検定結果の検証を行い、来年度の取り組みに反映させる。
	3. 卒業生の社会的評価	○本校卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、G-mail等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続	CSC	■実習先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を実施する。 ■3月中旬に行う27年度生のGメールでの調査結果の検証を行う。	■現在、実習訪問時に聞き取り確認をしている。 ■27年度卒業生の動向をGメールにより調査を行い、その結果を現在検討中である。	■現在、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■27年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。その結果を現在検証している。	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認する予定である。 ■27年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。
5 学生支援	1. 就職等進路	○新たに設けた進路指導協議会を通じて、各学科とCSCの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を進めてほしい。 ○また、CSC担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■実習先訪問や内定先訪問を通じて、より各業界の最新情報の収集を行う。 ■担当職員の研修へ積極的な参加を行う。また国家資格キャリアコンサルタントの未取得職員への取得を進める。	■現在、実習先より各業界の最新情報を収集しており、WCSPへ反映させるようにしている。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。	■現在、実習先や内定先の訪問を通じて各業界の最新情報を収集しており、WCSPへ反映させるようにしている。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。	■年度末にかけての実習先や内定先への訪問を通じて各業界の最新情報を収集しており、WCSPへ反映させるようにしている。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。
			新規	進路指導協議会	■協議会を通じて各学科と連携し、キャリアサポート関連の諸課題について検討する。特に医事系求人の早期化等の対策も行う。	■CSC、医療事務系3学科との協議を毎月開催。 ■1年次「キャリアデザイン」の内容の見直しを含め、就職活動時期の早期化への対応策検討を開始。	■CSC、医療事務系3学科協議を定期的に開催。 ■「キャリアデザイン」の内容を見直し中。 ■就職活動時期の早期化への具体的対応策検討中。	■CSC、医療事務系3学科との協議を重ね、就職活動時期の早期化を踏まえた次年度「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」のシラバス案を作成。今後も社会状況の変化や学生の理解度を確認しながら更なる改良に努める。 ■教材を一部改訂する予定。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。	継続	学科長会議	■引き続き、「学籍異動の記録」、「退学防止の事例記録」、「欠席等届」を活用する。構成員間で報告、情報共有することにより、退学抑制対策の参考とする。	■「学籍異動の記録」、「退学防止の事例記録」、「欠席等届」を活用する。構成員間で報告、情報共有することにより、退学抑制対策の参考とする予定である。	■「学籍異動の記録」、「退学防止の事例記録」、「欠席等届」、「hyper-QU」を活用する。構成員間で報告、情報共有することにより、退学抑制対策の参考としている。	■「学籍異動の記録」、「退学防止の事例記録」、「欠席等届」、「hyper-QU」を活用した。構成員間で報告、情報共有することにより、退学抑制対策の参考としている。
			新規	学生委員会	■退学防止調査票を前期2回、後期2回の4回、担任に提出してもらい、退学の予兆を早期に察知し、それを学科長にフィードバックし、退学抑制を図る。	■7月に第1回目を実施予定。	■7月に第1回目、9月に第2回目を実施した。集計結果を学科長会に報告した。	■7月に第1回目、9月に第2回目、12月に第3回目を実施した。それぞれの集計結果を学科長会に報告した。第4回目も1月に実施済みで、現在集計中である。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	広報室	■オープンキャンパスにおいて、教員、学生、卒業生スタッフとの懇談の時間を設け、見学者に対して説明を行う時間を設けている。また、広報室員が個別相談を受けるなど十分な説明ができるように心がけている。今後については、参加票において質問事項を記入してもらうなどの積極的な取り組みを行っていきたい。	■本年度のオープンキャンパスより、参加票に質問を書き入れる場所を設け、個別相談で回答できるようにしている。広報室員の説明力向上については、年度を通じて学務課、キャリアサポートセンターの協力を仰ぎ勉強していく予定である。	■参加票に記載された質問に対して確実に回答できるよう、懇談前に準備態勢を整えている。また、面談のシミュレーションを行ったり、学務課主催の勉強会に参加し、説明力の向上に努めている。	■中間点検時と同様に、個別相談での十分な説明を心がけている。夏からは留学生の会場ガイダンス、オープンキャンパス時において、十分な説明ができるよう資材や社会状況の把握に努めている。
			継続	医療秘書科	■保護者説明会、オープンキャンパス等において、アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明する。 ■カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを明確に伝え、入学後、そして卒業後の自分自身をイメージしてもらえる工夫をする。	■オープンキャンパスでの説明は不十分であり、改善に努める必要がある。 ■1年生に対してはカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに関することを伝えた。	■オープンキャンパスでの説明内容の改善に努めている。 ■1年生に対してはカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを繰り返し伝え、卒業時の自分自身をイメージさせる。	■オープンキャンパスにおいて、学科のポリシーを提示し説明している。また懇談においては入学後の学生生活が具体的にイメージできるような対応を心がけ、ミスマッチの防止に努めている。
			継続	医療マネジメント科	■学科紹介、説明会、懇談においては、学科全体についてのみならず、できるだけ学科の実像・実態を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらう。	■学科紹介、説明会、懇談においては、学科全体についてのみならず、できるだけ学科の実像・実態を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらっている。	■特にオープンキャンパスにおける学科紹介、説明会、懇談においては、学科紹介だけでなく、できるだけ学科の実像を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらい、ミスマッチの防止を図っている。	■特にオープンキャンパスにおける学科紹介、説明会、懇談においては、学科紹介だけでなく、できるだけ学科の実像を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらい、ミスマッチの防止を図った。 ■ミスマッチだけが原因ではなく、近年の学生の多様化等により、退学者は発生している。担任を中心として細やかに指導・対応している。
			新規	診療情報管理専攻科	■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施する。	■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施している。	■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施している。	■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施している。
			継続	くすり・調剤事務科	■2回以上オープンキャンパスに参加して学科について十分理解をする、ならびに授業参観にも積極的に勧めており、ミスマッチ減少に役に立っている。	■オープンキャンパスに参加した生徒には、2回以上の参加、授業参観などを勧めている。	■2回以上、オープンキャンパスに参加した生徒は、学科の内容もよく理解できているし、また入学率が高くなるので、今後も参加した生徒には2日以上参加を積極的に勧めていく。	■2回以上の参加者は、確かに入学率が高い。今後も継続して2回以上のオープンキャンパス参加を積極的に勧めていく。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			継続	介護福祉科	■オープンキャンパスでは、外国人留学生向けの学科説明を検討していく。 ■入学後のミスマッチにより退学者を予防するために、オープンキャンパスでは介護についての理解ができるよう丁寧な説明をしていく。	■外国人向け学科説明用パワーポイントを用い説明を行っている。今後も、改善部分は修正していく。 ■オープンキャンパスでは、介護に興味を持ってもらえることを先決とし、説明時にプチ体験を入れたりし介護についての理解できるようにしている。	■オープンキャンパスでは多国の留学生の参加があるため、参加者の状況、日本語レベルに合わせた説明をしている。 ■学科説明では、介護福祉士とはをイメージしやすいよう、言葉だけではなく簡単な実体験を織り交ぜながら説明し理解を深めてもらっている。	■オープンキャンパス以外での留学生の個別相談が多かった。留学生については、個別対応の方が、日本語レベルに合った説明ができた。 ■オープンキャンパスでは、留学生にも理解できるよう、簡単な実体験を織り交ぜた内容で今後も継続していく。
			継続	鍼灸医療科	■鍼灸師の職域や学びについて理解できるよう、31年度生に向けた学科スライドを新たに作成をした。 ■毎回のオープンキャンパスの中にミニ体験を実施し、鍼灸に対する理解を深める。	■より具体的なイメージに繋げるため、オープンキャンパス内にて鍼灸企業と協働でデモンストレーションを実施予定である。DMを作成し送付する。	■7月のオープンキャンパス内で鍼灸企業と協働でデモンストレーションを実施済みである。鍼灸についての理解が深まったと感じている。	31年度募集停止に伴いオープンキャンパスは実施していない。
			継続	看護科	■看護学生スタートブック(藤井徹也著)が評判となって多くの看護大学、専門学校でテキストとして活用されている。当校も来年度は入学前及び入学後のオリエンテーションで活用していく方針。	■入学生全員が購入し、入学後のオリエンテーションで使用した。次年度は入学前プログラムの中に取り入れて、学びのイメージ化が図られつと良いと思う。	■検討中。	■オープンキャンパスの時期、内容については随時「入試委員会看護科部会」にて話し合い、決定事項を学科内におろして協力を求めた。入学後の生活のイメージ化が図れる取り組みが更に必要と考えるので、来年度は視聴覚媒体の作成に着手する。
	(1)経済的側面に対する支援体制	○緊急時における公的な制度と合わせた本校独自の支援などの経済的支援策については、国による新たな支援制度の進捗に合わせて、本校に可能な支援策の検討に期待したい。	継続	校長	■給付型奨学金など、現在、公的に整備されつつある制度と合わせた、在校生に対する本校独自の経済的支援策等を、具体的に検討したい。	■在校生に対する新たな経済的支援策については、現在急速に整備されようとしている公的な制度の動向を見ながら、具体的に検討していく予定である。 ■介護福祉科に入学する外国人留学生への経済支援については、緊急の課題として、具体的な検討を進めている。	■高等教育無償化等の動向も視野に入れつつ、学生への経済的支援の在り方について、検討しているところである。 ■介護福祉科に入学する外国人留学生への経済的支援については、具体的なプランを検討中である。	■高等教育無償化等の動向も視野に入れ、学生への経済的支援の在り方について検討中である。 ■介護福祉科に入学する外国人留学生への経済的支援については、外部の組織等とも連携し、次年度から具体的に推し進めることにしている。
	5. 保護者との連携	○保護者会は学科毎の課題となっているが、介護福祉科において開催が実現したことは一歩前進である。丁寧な説明や意見交換から生まれる安心感は本校教育の信頼に直接繋がるものでもあることから、引き続き検討を進めてほしい。	継続	校長	■本年度も4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けることにしている。入学後の保護者会等の開催は、各学科の個別の事情を考慮し、学科の課題として具体的に検討してもらふこととした。	■4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けた。 ■6月2日に介護福祉科の保護者会を開催し、7名の保護者が参加した。	■新たに医療秘書科で、1年生の保護者を対象とした保護者会を、10月に開催予定である。	■今年度は介護福祉科、医療秘書科で開催した。各学科の個別の事情を考慮はするものの、次年度も各学科の課題として、実施を検討してもらふ予定である。
			継続	医療秘書科	■出願前の保護者向け説明会で学科情報を伝え、理解を得る。 ■在学生の保護者会開催を検討する。 ■保護者への情報提供の内容や方法を検討する。	■9月に、1年生の保護者会開催を検討している。	■10月に1年生対象保護者会を初めて開催する。	■懸案事項となっていた1年生の保護者を対象とした保護者会を10月に開催した。内容は、1.全体会、2.担任との個人面談の2部構成とし、全体会では3つのポリシーの説明や検定の取得状況、就職状況の説明、医師事務技術専攻科の案内を盛り込んだ。個人面談のニーズの高さを実感したため、内容を再検討しながら次年度に繋げていく予定である。
			継続	医療マネジメント科	■問題がある学生については、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。また、それらの実施にあたっては、引き続き個人情報保護を遵守する。	■問題がある学生については、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処している。必要に応じて保護者とも面談する。	■問題がある学生については、教職員間で連携している。できるだけ保護者とも面談している。	■問題がある学生については、教職員間で連携している。できるだけ保護者とも面談している。 ■近年、保護者についても多様化しており、その対処・対応については、他学科・他部署との連携を強化したいと考えている。
			新規	診療情報管理専攻科	■問題がある学生は稀少であるが、仮に発生した際は速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。	■問題がある学生は稀少であるが、仮に発生した際は速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する予定である。	■問題がある学生が発生した際は、速やかに保護者に連絡して対処している。	■問題がある学生が発生した際は、速やかに保護者に連絡して対処している。
			継続	くすり・調剤事務科	■いまのところ、問題のあるケースや問題のある学生に限って保護者と連絡を取っていて、効果を上げている。	■本年度は、まだ問題のあるケースが生じていない。問題が生じた場合には、すぐ保護者への連絡する体制はとっている。	■現在のところ、問題が生じた学生に限り、保護者との連絡をとる体制を維持している。	■現在のところ、問題が生じた学生に限り、保護者との連絡を取る体制で維持している。
			継続	介護福祉科	■6月の介護実習Ⅰに入る前に、1、2年生合同での保護者会を予定している。 ■保護者への連絡等は、電話連絡や、必要に応じて三者面談を実施する。	■6月に1,2年生合同の保護者会と希望者に個人面談を実施した。 ■成績に不安がある学生には、三者面談を8月に実施する予定	■8月に成績不振の学生に三者面談を実施し、現状の報告と今後に向けての確認をした。 ■保護者への連絡が必要な場合は、適宜実施予定。	■1月に成績不振の学生に、保護者面談をし、現状の報告と今後の進路について確認をした。 ■年1回の保護者会を実施しているが、連絡が必要な場合は、今後も適宜対応をしていく予定。
			継続	鍼灸医療科	■新入生オリエンテーションでは、毎年、保護者の参加を促しており、本年度も案内を送付済みである。 ■学園祭では1年生の保護者を対象に面談を30年度も実施予定である。 ■3年生の保護者には受験申込前に個別面談を実施しており、受験までの理解と協力をお願いしている。	■例年通り、新入生オリエンテーションでは新卒者保護者の参加が多くみられた。保護者とのコミュニケーションを図り円滑な学園生活、国家試験までのサポート体制を行う。	■10月初旬に前期成績表を保護者に送付済み。再試験を実施後、未修得科目がある学生については、11月に保護者との面談を予定している。 ■1年生保護者には学園祭での面談について案内を11月に発送予定である。	■学園祭では、保護者面談を実施済み。 ■31年度は新入生がいないため、オリエンテーションは実施しないが在校生に対してはより丁寧な対応をおこなっていく。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
6. 卒業生・社会人			継続	看護科	■各学年担任を2名としているので、保護者及び該当学生と早期に連絡を取り合い指導を進めている。	■学生側の要望もあり、保護者とのコンタクトをタイムリーに取れないことがある。	■各担任は問題発生早期に保護者とのコンタクトをとるように意識して学生指導を実施中。	■各担任は保護者との連携を良く図っていた。社会人学生であっても、保護者の意見を確認し進路の決定に携わっていた。
		○また、成績等の報告についても個人情報保護をはじめとした必要な対策をとった上で、実施に向けた準備を進めることに期待したい。	継続	校長	■保護者への成績等の報告については、主に高校新卒の入学者を対象に、学科ごとに検討することとなっている。	■保護者への成績等の報告については、これまでの学科長会議での意見交換を踏まえ、主に高校新卒の入学者を対象に学科ごとに検討する予定である。	■保護者への成績等の報告については、各学科で検討をしている段階である。	■主に高校新卒で入学した学生を対象とする保護者への成績等の報告については、学科ごとの状況に応じて検討することになっている。
			継続	事務局長	■入学式における説明は、内容の見直しを行い学科長会議での確認を経て実施する。 ■成績等の報告は、送付対象の確認や送付方法とコストがネックとなっている。委員会でご意見をいただいたメールでできる情報提供等、実施障壁の低い部分から取り組みたい。	■入学式における説明は、実施の有無も含め年度内の学科長会議で確認を行う。 ■メールによる情報提供は、アドレスのメンテナンスを含めた管理、提供する情報の選別と作成及び提供に際しての許可の流れ、これらを担当する役割分担について9月までに提案を行い、次年度からの運用を目標としたい。	■入学式における説明は、実施の有無も含め年度内の学科長会議で確認を行う予定。 ■メールによる情報提供は、現時点までに提案ができていない。12月までに実施案をまとめ提案を行う予定。	■入学式における説明は、3月度の学科長会議で実施の有無を諮り、実施の場合は内容確認を行う。 ■メールによる情報提供は、アドレスの管理・メンテナンスや提供する情報の作成等についての体制が整わず、提案ができていない。引き続き検討を行う。
		○更に、今後は授業公開についても、教員研修としてだけでなく、保護者に子どもの勉強内容や学校の様子を見ていただくものと位置づけた取組として行うことも検討課題としてほしい。	新規	校長	■保護者会の実施と併せて開催することを検討したい。	■保護者会の実施と併せ、各学科で検討することになっている。	■各学科で検討中である。	■保護者会の実施と併せて、各学科での検討課題となっている。
	6. 卒業生・社会人	○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○卒業生支援講座については、卒業生のニーズ把握に着眼点があると思われるので、G-mailなどを使つての調査やPR方法を工夫して参加者の増加を図ってほしい。	継続	校長	■卒業生支援講座については、キャリアサポートセンターを中心に、G-mailなどを活用して卒業生の学びのニーズを把握し、教務委員会(卒業生支援・卒後研修担当)、校友会事務局等が連携し、講座企画の具体化を図る。	■卒業生支援講座は、キャリアサポートセンターを中心に、卒業生の学びのニーズを把握し、教務委員会(卒業生支援・卒後研修担当)、校友会事務局、さらには校長室の新規教育開発プロジェクトチームが連携し、講座企画の具体化を図ることになっている。	■8月に字幕制作の仕事を紹介する卒業生支援講座を開催し、速記科の卒業生などが参加した。また、9月には卒業生支援講座「調剤事務入門」を開催した。	■2月に卒業生支援講座「これから登録販売者を目指す方のための入門講座」を開催した。今後は卒業生支援講座については、夜間・休日の校舎を活用した、主に社会人を対象とする「学び直しの講座」の一環として開催したいと考えている。
			継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも求人状況提供や就職相談など積極的に対応していく。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。現在、既卒求人の告知方法について検討中であり、WEBを利用した告知方法にも取り組んでいく。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。WEBを利用した告知方法を検討中であるが、まだ実施はできていない。今年度中の稼働を目指す。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。WEBを利用した告知方法を検討中であるが、まだ実施はできていない。今年度中の稼働を目指す。
			継続	教務委員会	■卒業生支援講座に関しては、企画、運営には委員会として引き続き協力する。29年度より校友会が予算を全面負担しており、今後はキャリアサポートセンターと校友会が共同で実施するよう所管を移す方向で検討する。	■卒業生支援講座は30年度は3回の実施が決定している。 ■第1回は8月に字幕速記の仕事紹介をテーマに実施する。第2回は9月に調剤事務入門講座を、第3回は2月に登録販売者入門講座を実施する。	■第1回卒業生支援講座は、8月に「字幕速記って何？」をテーマに需要が拡大しているテレビ字幕制作の仕事内容を紹介した。速記コンピュータ科の卒業生を中心に参加し、大変好評であった。 ■第2回卒業生支援講座は9月に「これから調剤事務を目指す方のための入門講座」を実施した。	■2月に第3回卒業生支援講座「これから登録販売者を目指す方のための入門講座」を実施した。
			継続	校友会事務局	■本年度の卒業生支援講座については、卒業生の参加状況もよく目標を達成できた。次年度についても卒業生の求める企画と実施が求められるため、教職員全体で企画し盛り上げていく必要がある。	■7月発行予定の校友会報第49号に、前年度の実施報告と本年度実施の3講座の案内を掲載する。 ■また、案内チラシを別途作成し、校友会報とともに送付する計画である。 ■講座内容、案内に関する企画については、校友会事務局としても協力を行っている。	■予定どおり、校友会報第49号に実施予定3講座の案内掲載びチラシを作成し送付した。また、ホームページでの案内も追加して行っている。 講座の企画、運営についても、校友会事務局として連携して実施している。	■卒業生支援講座の他に、3月から開催する有料講座についてもホームページの新着情報を使って広報した。2月中旬からは校友会ホームページを開設し、こちらでの広報も行っていく予定である。
6 教育環境	1. 施設・設備等	○本校の教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	事務局長	■栗田静枝診療録管理普及基金より寄贈されたタブレット端末を活用するため、研修室と6階1教室にWi-Fi設備が導入された。 また、30年度予算では第1PC室のリニューアルを行い、バリアフリー等他の整備計画は、必要性和予算の状況を見ながら進めていく。	■Wi-Fiやバリアフリーなどの施設・設備の改修については、補助金や寄贈の可能性も探りつつ、必要性和予算の状況により検討を行う。	■Wi-Fiやバリアフリーなどの施設・設備の改修については、補助金や寄贈の可能性も探りつつ、必要性和次年度予算の状況により1月までに検討を行う予定。	■Wi-Fiやバリアフリーなどの施設・設備の改修については、必要性和予算の状況を見極めつつ、引き続き検討を行う。
	2. 学外実習、インターンシップ	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化を課題としており、関係者による情報共有と一層の連携が望まれる。	新規	CSC	■各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努める。また前年度の行った各対策を検証し、次年度に生かす。	■各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努める。また前年度の行った各対策が、効果があったため、引き続き前年度の対策をさらに進める。	■各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努める。また前年度の行った各対策が、効果があったため、引き続き前年度の対策をさらに進める。具体的には、勤務を週4日間をなるべく基本として医療機関にお願いをし、インターンシップ専攻生が、余裕を持って仕事に取り組めるよう学校としてもバックアップする。	■各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努める。また前年度の行った各対策が、効果があったため、引き続き前年度の対策をさらに進める。具体的には、開始時期を遅めることや余裕を持った勤務等である。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
			新規	医療秘書科	■月間報告書の内容を工夫する。 ■毎月の登校日設定の頻度やメニューを再考する。 ■Gmailを利用したフォロー方法を検討する。	■病院事務実習における報告書作成について、これまで以上に時間をかけて事前指導した。	■インターンシップ開始時期を迎え、提供する情報及び指導内容を工夫している。 ■次年度に向け、就職活動前のインターンシップに関する指導内容の充実化を図る。	■キャリアサポートセンターと連携し、インターンシップ専攻生のフォローに努めた。登校日には担任が面談を行い、その状況を共有することで、指導またはインターンシップ先への働きかけを行った。 ■次年度に向け、就職活動前のインターンシップに関する指導内容を実状に即した内容にしていく予定である。また、インターンシップ中の諸条件の提示についても検討を進める予定である。
			新規	医療マネジメント科	■キャリアサポートセンターとの連携を基本として、登校日、個別連絡・面談も活用して対応する。	■具体的な対策・対応については、今後である。	■具体的な実施はこれからになるが、月間報告書、G-mail等の活用により、インターンシップ生の動向について早めに察知できるようにする。 ■登校日について、今まで以上に活用する。	■月間報告書、G-mail等の活用により、インターンシップ生の動向について早めに察知するよう心掛けた。 ■登校日を活用し、インターンシップ生の動向について確認した。
	3. 防災・安全管理	○授業中の事故等に関する共通のマニュアルなどの整備が求められる。	継続	学科長会議	■学校安全管理マニュアル等を参考にして、簡易的な形式で作成する作業について、学務課と協力して実施する予定である。	■学校安全管理マニュアル等を参考にして、簡易的な形式で作成する作業について、学務課と協力して実施することを検討している。	■事故等対策簡易マニュアルについて、今後作成することを検討する。	■次年度以降、検討する予定である。
			継続	学務課長	■事務局長が専門学校マニュアル案と学校法人の危機管理マニュアルとの整合性について検討中である。	■現在も引き続き検討中である。	■現在も引き続き検討中である。	■現在も引き続き検討中である。次年度は必要性の有無も含めて検討したい。
		○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続	学務課長	■29年度は看護科学生全員に無償で、医療事務系科学生希望者には有償で、インフルエンザ集団予防接種を行った。 ■また、看護科病院実習担当教員に対して、無償で予防接種を行った。それ以外の学生・教員に対しては、保健室だより等を通じて、接種の重要性を説く啓蒙を行った。	■30年度も同様に、学生に対してインフルエンザ予防接種を実施する予定である。 ■30年度も同様に、看護科病院実習教員に対して予防接種を実施する予定である。また、保健室だよりの中に予防接種についての内容を記載する予定である。	■30年度も同様に、学生に対してインフルエンザ予防接種を実施する予定である。 ■30年度も同様に、看護科病院実習教員に対して予防接種を実施する予定である。また、保健室だより11月号の中に予防接種についての内容を記載する予定である。	■30年度も同様に、看護科の学生に対してインフルエンザ予防接種を12月に実施した。 ■30年度も同様に、看護科病院実習教員に対して予防接種を12月に実施した。また、今年度は多数のインフルエンザ罹患者が発生したため、保健室だより10～2月号の中に予防接種についての内容だけでなく、インフルエンザについての情報も記載した。
		○課題としている災害発生時の学内待機、近隣の被災者受け入れなどについては難しい面もあるが、引き続き近隣との連携をできるところから整備を進めてほしい	継続	事務局長	■近隣との連携の前段階として学生・教職員の安全を確保する体制をまとめ、その上で被災者受け入れの条件や受け入れ後の安全・安心を確保するための体制を作成したい。	■専門学校だけでなく本部・アウトプット・協業を含めて、学生・教職員の安全確保を第一とした体制案を作成し、その後に被災者受け入れの条件や受け入れ体制案を作成したい。	■現時点では、災害時の被災者受け入れ体制案は提案できていない。年度末までに体制案を作成し提案を行う予定。	■近隣との連携について自治体の体制が確認できておらず、本校での受け入れ体制は提案できていない。引き続き検討を行う。
	6. 卒業生・社会人	■総評より: ○卒業生に向けてはキャリアアップを目指した転職支援などの情報提供など、何かあったら学校に相談できるという受け皿を広げていただければと思う。	新規	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも求人状況提供や就職相談など積極的に対応していく。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。現在、既卒求人の告知方法について検討中であり、WEBを利用した告知方法にも取り組んでいく。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。WEBを利用した告知方法を検討中であるが、まだ実施はできていない。今年度中の稼働を目指す。	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。WEBを利用した告知方法を検討中であるが、まだ実施はできていない。今年度中の稼働を目指す。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○本校ではホームページ上で積極的に情報公開を進めているが、高校における専門学校の理解が必ずしも進んでいないのが現状と言われている。より理解を深めるためには、例えば就職であれば就職データだけでなく、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供に向けた具体的な検討が望まれる。 ○新たに活動を開始した募集広報協議会については、年間計画を策定するなど、具体的な取り組みを明確にした継続活動が望まれる。	新規	広報室	■高等学校に対する理解を深めるための方策は特に行えていないのが現状である。今後については、各学科の職業理解を深めてもらうためのチラシを順次作成し、高校訪問のツールとして活用したい。	■現在医療事務系のリーフレットを、7月中旬の完成を目指して進めている。他の学科についても、順次制作を進めていく予定である。	■7月に医療事務系リーフレットの作成を行い、資料請求者、OC参加者に配付している。また、SOKKI DAYS(学生生活案内)も同時期に作成し、配付を行った。 職業紹介チラシの作成は未着手である。11月から予定している高校訪問にあわせて作成を進めたい。	■職業紹介チラシの作成は未着手となっている。募集広報協議会の年間活動計画については年間計画が示されている。
			新規	募集広報協議会	■募集広報協議会は年間計画を掲げ実施するまでに至らなかった。次年度は校長室主体で運営がなされることとなっている。	■5月以降、毎月開催している。 ■2020年度生募集を想定し、新たな取り組みを含め、活動計画を検討している。	■定期的に開催している。 ■2020年度生募集に向け活動計画を作成した。	■協議を重ね、2020年度生募集活動の準備については概ね計画に沿った進捗ができた。 ■進捗を確認しつつ、2021年度生募集活動計画に関する協議を速やかに開始する予定。
		■総評より: ○高校の先生に医療事務の仕事内容をもう少しアピールしてほしい。 ○高校の先生や保護者に向けた学科とその教育内容に関する情報提供にもっと工夫があっても良いのではないか。	新規	広報室	■高度化、専門化に関しては高校ガイダンス、独自訪問のさいに特にアピールをしている。次年度からは、職業紹介チラシを持参し、医事系職種はアピールしていく。	■新規に作成するリーフレットを利用して、7月からの高校ガイダンス、独自訪問で、医療事務系の高度化、専門化について強く説明を行っていく。	■医療事務系のリーフレットは作成し高校ガイダンス資料、資料請求者への送付に利用している。他に予定しているくすり・調剤事務科については未着手であるため、年度内の作成を目指す。	■未着手となっていたくすり・調剤事務科の職業紹介リーフレットを制作中である。リーフレットでは、イラストを使うなど職業イメージがしやすい工夫している。
			新規	募集広報協議会	■高校教員については、ガイダンス終了時にスピーディーに本校の特徴についてPRができるチラシを作成することとし、次年度の訪問より活用していく。	■高校教員向けチラシを作成し、本校に対する理解が深まるよう工夫している。	■専門学校に対する高校教員の認識が深まるよう情報提供に努める。	■専門学校で学習する意義と卒業後の活躍フィールド等を更に明確にし、本校の認知度を高めるため、高校教員への情報提供を継続する。

大項目	中項目	29年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状・進捗状況 ※2	中間点検 ※3	年度末点検 ※4
		○医師事務技術専攻科は、本校の医療事務分野教育の高度化を目指した専攻科であることから、学内において工夫した募集活動が望まれる。	新規	医療秘書科	■30年度入学生からは入学前に学校案内書にて医師事務技術専攻科に関する情報を提供している。 ■29年度生は入学前に情報提供できておらず、入学後に学科紹介、職種説明等を実施した。 ■定期的にインフォメーションする機会を設け、事務局と協力して進学者を獲得する。	■30年度生に対しては入学後も情報提供を続ける。 ■29年度生に対しては、1年次から引き続き、情報提供を継続している。また、2年次担任による面談の際にも情報提供及び意思確認をしている。 ■5月には、姉妹校へも出向き、関心のある学生に対する職種の紹介や学科の説明を実施した。	■30年度生に対しては保護者会でも案内する。 ■姉妹校の学生に対する学習機会提供の道筋を検討している。	■29年度生に対しては、2年担任や医師事務技術専攻科関連教科の担当教員からも情報提供と進学の意思確認を継続した。 ■30年度生に対しては医師事務作業補助者の職種としての将来性を、保護者会においても説明した。
			新規	医療マネジメント科	■外部に対する募集活動は、広報室との連携が基本姿勢である。専攻科募集については、診療情報管理専攻科をより促進しつつ、医師事務技術専攻科の並立を検討する。	■専攻科募集については、今後、診療情報管理専攻科をより促進しつつ、医師事務技術専攻科の並立をさせる予定である。	■特に医師事務技術専攻科については、関連する分野の授業において担当教員から紹介して、進学促進の一助としている。	■特に医師事務技術専攻科については、関連する分野の授業において担当教員から紹介して、進学促進の一助とした。
			新規	広報室	■オープンキャンパスでは医師事務作業補助者の有用性について説明を行っている。また、募集概要掲示物の制作を担当し、校内数カ所に掲示を行った。今後も高校生に対して継続して有用性を説明していく。	■オープンキャンパスの個別相談や、高校ガイダンスにおいて生徒、教員に対してPRを続けている。	■高校ガイダンスでは高度化する医療現場に対応する有望な職種として、医師事務技術専攻科のPRを、高校生、高校教員に対して積極的に行っている。	■11月に開催された医師事務作業補助者に関する勉強会に参加し見識を深めた。これらの情報をもとに高校ガイダンスや12月からの高校独自訪問で自信を持った説明ができています。
		○入学後、学力傾向を把握するため、共通基礎学力テストを実施し、教員向けの授業方法の検討資料としている。 ○この資料を就職指導にも生かすことを今後の課題としているが、分析の方法を更に工夫して有効に活用してほしい。	新規	教務委員会	■教務委員会では共通基礎学力テストの実施、分析、報告までを担当する。就職活動に活かすために必要なデータがあれば応じる準備はある。活用方法についてはキャリアサポートセンター、進路指導協議会、および各学科での検討課題と認識している。	■5月上旬に全新生入に対して共通基礎学力テストを実施し、集計結果を受領した。9月の教職員全体会において分析結果を報告できるよう分析に着手した。 ■資料の活用についての相談や分析方法の要望は、委員会からの呼びかけにも拘らず、現在のところキャリアサポートセンター、進路指導協議会、各学科、その他とも皆無である。特に要望がなければ、前年と同様の分析を行う予定である。	■9月19日教職員全体会において、全教職員に対して共通基礎学力テスト分析結果を報告した。今年度は経年変化と、共通基礎学力テストと入学後の成績評価との相関、学科毎の特徴などに着目して分析した。また、退学者と全体との学力差を入試区分別に調査した。	■分析結果及び関連資料は随時閲覧できる学内グループウェアに保存し、各部門、各学科において自由に活用できる状態にしている。
9 法令などの遵守	2. 個人情報	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■入学時や実習前などに指導を行っており、引き続き問題例等の情報収集を行い、適宜周知する。	■情報収集に努め、適宜、新しい手法への対応を周知する。	■年度途中での情報提供は行っていないが、引き続き情報収集に努め、適宜、新しい手法への対応を周知する。	■引き続き情報収集に努め、適宜、新しい問題例への対応を周知する。
			継続	学生委員会	■1か月に1回以上のペースで学生委員会メールを送信する。内容は保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、個人情報に保護に関する注意喚起を予定している。	■ボランティア募集メールを5月に送信した。	■SNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起を行う予定。	■保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、個人情報の保護に関する注意喚起等、Gmailにてこれまで第26号まで配信した。
	9 法令などの遵守	■総評より: ○委員会の運営は、学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間がもっとあればよい。	新規	自己点検委員会	■委員会の最後の次第に「意見交換」を設定し、その日の設定議題に関わらない委員からの自由意見、提案の場を設ける。 ■29年度第3回の委員会から開始する。	■29年度第3回の委員会の次第に「意見交換」を設定して、議題に関わらない意見交換を行っていただいた。 ■意見交換の概要は議事録に記録した。	■30年度第1回の委員会においても次第に「意見交換」を設定して、議題に関わらない意見交換を行っていただいた。 ■意見交換の概要は議事録に記録した。	■30年度第2回委員会においても次第に「意見交換」を設定して、議題に関わらない意見交換を行っていただいた。第3回も設定する予定である。 ■意見交換の概要は議事録に記録した。
	10 社会貢献・地域貢献	1. 社会貢献・地域貢献	継続	校長	■字幕制作・速記者養成科など、新設の学科においては既に企業等と連携した教育プログラムの開発に着手しているが、専門課程以外の新規の教育事業においても、積極的に企業等と連携した教育プログラムの開発を推し進めたい。	■新設学科においては、既に企業等と連携した教育プログラムの開発に着手しているが、専門課程以外の新規の教育事業についても、校長室の新規教育開発プロジェクトチームを中心に、積極的に企業等と連携した教育プログラムの開発を推し進めることにしている。	■専門課程以外の新規の教育事業については、新規教育開発プロジェクトチームを中心に、他の教育機関や企業等と連携した教育プログラムの実施に向け、具体的な計画を策定中である。	■専門課程以外の新規の教育事業については、他の教育機関・企業等と連携した教育プログラムの次年度実施に向け、すでに計画を進めている。また、既存の専門課程の学科についても、企業等と連携した教育プログラムの開発を推進することになっている。
			継続	事務局長	■30年度は介護福祉科・鍼灸医療科が主催する講座を実施する。次年度以降も講座内容、日程等の検討を行い、継続的に実施する。	■30年度の講座を滞りなく実施するとともに、年内を目標に31年度の講座について内容・日程等の検討を行う。	■30年度の講座は滞りなく実施した。年内を目標に31年度の講座について内容・日程等の検討を行う予定。	■31年度の講座について、介護・鍼灸の分野で提案があり、2月に申請を行った。
		2. ボランティア活動	継続	学生委員会	■学生委員会メールを活用して、2か月に1回程度および随時、ボランティア募集情報を送信する。 ■東専各が公開しているホームページ「ボラ活」にて、他校と共に本校のボランティア活動の様子を紹介する。年に1回か2回更新する予定。	■ボランティア募集メールを5月に送信した。 ■夏休み期間中のボランティア活動の様子を取材して、アップする予定。	■ボランティア募集メールを5・6・7・9月に送信した。 ■夏休み期間中のボランティア活動の様子画像を入手した。ボラ活サイトの更新時期に更新する予定。	■これまでにボランティア募集メールを9通配信した。 ■「ボラ活」サイトの更新についての案内がされないため、更新できない。ボランティア活動の様子写真は用意できているため、案内がきたら、即更新したい。